

「東京真田町の会」会報

# 日本タボス

設立20周年記念号

平成 19年 12月 22日



## 初秋の眞田氏歴史館

…… 訪れて見たいふるさとの風景 ……

写真提供：広報部 武捨衛人  
撮 影：2007.9.24

NO.

20

# ふるさとの風景1 新緑～初夏

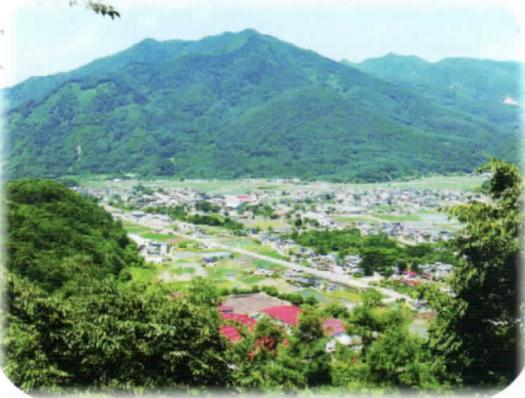
写真撮影：編集部 武捨 衛人



菅平高原の路傍



中組付近の新緑



真田本城跡から  
真田町中央部を望む



初夏風景…  
真っ赤なグミ



太郎山麓  
大庭の初夏



初夏の秘湯



涼しい初夏風景…  
長谷寺の水辺



横道から  
大松山を望む



# 会長 あいさつ



会長 中島正江

(戸沢出身)

会員の皆様如何お過ごしでしょうか。又会報の発行の時となりました。いつも思うのはこの会報を通して少しでも故郷のお知らせ、そして会員の皆様のお声が届けられたらと思っております。

6月の東京真田町の会の総会がありました。各方面の皆様にもご支援頂きながら無事終了する事が出来ました。

上田市長さん始め市議会議長、教育長、真田地区出身の市議の皆様、真田地域自治センター長さん、事務担当の方々、ご出席賜り感謝申し上げます。

今年で20周年ですが、諸先輩理事の皆様が一生懸命に努力され、会員の皆様と共に歩んでこられた結果だと思えます。

発足当時はたしか上野の池之端文化センターか?と思いましたが参加人数も今より数倍の人達で会場も所

狭しと人々でむせ返っておりまして。ふるさとを思う心が強かったのかなし、でも今だってふるさとを思う心が以前に増して強くなつて来ている人達が沢山おります。

どのようにしてこれから先、会員の皆様と共にこの会を盛り上げて行くのかと思いを馳せている今日この頃です。良い知恵がありましたら、ご提案下さい。お待ちしております。

今年の総会では初めての試みとして、くじ引き大会をしました。いつ自分の番号が当たるかと、胸がどきどきする瞬間が楽しいですが、上田市長さんにも何か当たると思いましたが、残念、お土産に使えるルーペを差し上げようと思いましたが、自分は未だ若いので必要ないとの事でした。若いつていいですね。私などは年々度数が上がつて来ますが、又、次回をお楽しみにして下さい。

さてふしぎな事に会員の皆様とお会いすると自然と田舎言葉が出て来ますね。楽しい一日が過ぎました。この頃は真田へ帰る事が多く四季折々すばらしい所だなーこの景色、空気、田舎のない

人達に分けて上げたいなあー  
そして都会の子供達とも農業体験等出来るように計画して上げたいと思います。具体的になるような事があったら、町の皆様ご協力して下さい。

さいね。子供たちのすてきな笑顔が見たいから、親子で参加出来たら、とてもすばらしい事だと思っております。又総会等で元気にお会いしましょう。

## 東京真田町の会発足20周年をお祝いして



上田市長 母袋創一

近い会員の皆様と語り合えたひと時は、旧知の間柄のような親しさを覚えたのと同時に皆様のふるさとに寄せる熱き思いに触れ、合併した新上田市発展の使命と責任を改めて感じるものであります。

東京真田町の会が昭和63年に発足され、今年で20周年を迎えられましたことに対しまして心からお祝い申し上げます。また発足時に創刊された会報「日本ダボス」の記念すべき第20号の発行おめでとうございませう。この間、一致団結して会の発展にご尽力いただいた皆様に深甚なる敬意を表するとともに、これから会員相互の親睦と交流や故郷とのきずなを結ぶ会として発展されますよう心から願っております。

去る6月10日開催された第20回の総会には、私をはじめ大勢がお招きいただきました。出席された100名

さて、新上田市が発足して2年が経とうとしています。新市発足からの10年間は、20年、30年先の上田市の礎を築くためのとても重要な期間であり、速やかな一体感の醸成を図る意味にも、合併後の新たな視点でのまちづくりの指針を定める必要があります。そこで市民へのアンケートや各種の懇談会などで集約した多くの意見が反映された審議会からの答申を踏まえて今年9月、新市の最上位の計画となる第一次上田市総合計画を策定いたしました。新市の将来像は「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」をキャッチフレ

ーズとして、その実現に向けた基本理念を「自立と協働」、「循環と交流」、「創造と調和」という3つのキーワードとして掲げております。

この計画の特徴としては、市内9地域に設けました地域協議会を通じて行政と住民の連携によって策定された「地域まちづくり方針」を盛り込んだことです。真田地域では、自然環境に恵まれ、真田氏発祥の郷としての歴史に培われた数多くの資源と菅平高原に代表されるスポーツリゾートとしての特性を活かした地域づくりを進めることとした真田地域の思いを込めた方針内容となっております。

また、合併により誕生した新上田市がより豊かで活力のあるまちとなるための生活目標として、市民憲章を9月に制定しました。

### 上田市市民憲章

上田市は 千曲川の清流と菅平高原から美ヶ原高原までひろがる豊かな自然や先人の築いた歴史と文化を大切にすまちなちです

わたくしたちは 上田市民であることに誇りと責任を持ち 未来への発展を願ってここに市民憲章をさだめます

一 美しい自然を守り 歴史や伝統に学ぶ 文化の薫るまちをつくり  
ます

一 共に尊重し合い 平和を愛し

やさしさあふれるまちをつくり  
ます

一 未来を担う子どもらが健やかに育つ 夢あるまちをつくり  
ます  
一 多彩な産業と資源をいかし 希望と活力みなぎるまちをつくり  
ます

新上田市がこれから目指すべきものや守るべきもの、そして上田市の将来に対する願いが込められた市民憲章であります。

新上田市は合併によって有したスケールメリットをあらゆる分野で活かしながら新たなまちづくりに邁進して参ります。会員の皆様方にはご活躍されているそれぞれのお立場から、上田市の未来に向けた取り組みに対するご提言を遠慮なくお寄せいただき、皆様と共に誇れる故郷「上田市」にしたいと存じます。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます、会発足20周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 皆様の期待に応えます

上田市議会議長 土屋 陽 一

の工夫をしていくことも視野にいれ、市民にわかりやすい質問方法にしていくことが必要と感じております。そして、議員三十四人は、上田市民の皆様への負託に応えるためにもまた、東京真田町の会の皆様のご期待に副えるためにもより一層奮励努力をして参ります。

さて、九月議会では、上田市基本構想・基本計画・国土利用計画を議決し、これを基本に市政が運営・経営されていきます。また、多くの市民からのご要望の市民憲章が制定されました。

この市民憲章には、旧真田町の象徴でもあります「菅平高原」が前文に記され、「先人の築いた歴史」には、真田一族などの活躍が含まれております。

過日は、菅平高原観光産業八十周年のお祝いがありました。スキーやラグビーなどの全国組織の役員の方々も来賓としてご参加されておりました。この様子を拝見しますとまさに全国区の観光産業の地であることを一層感じました。

また、姉妹都市の一つの和歌山県九度山町議会の森本健之議長さんは



じめ議員の皆さんの訪問を受けました。真田一族のご縁で結ばれているその絆を更に深くしていくことを誓い合いました。

今後市民憲章の「菅平高原から美ヶ原高原まで」の心を忘れず、議会運営を進めますが、皆様におかれましても「ふるさと上田」を愛し続けて下さることをご期待申し上げます。そして、この「日本ダボス」を通して会員の皆様方の心と心のふれあいと絆がより一層深まり中島正江会長様を中心に東京真田町の会が益々ご発展されますことをお祈り申し上げます。

## 「日本ダボス」 20周年記念号に

寄せて

顧問 小林 孝雄  
(曲尾出身)



会報「日本ダボス」が本号で20周年記念号となる。東京真田町の会の発足は、昭和63年9月10日、上野池之端文化センターに於いて開催された創立総会であった。当日の参加者は会員二二六名、真田町関係者五五名、総数三〇〇名近い盛会であった。議事に従い初代役員一九名が選出され、昭和六三年度事業計画が決められた。初代会長に選任された私は、先ず方針として理事会を定期的に開催することとし、各理事には夫々担務を決め、責任を分担してもらうこととした。理事会の場所は、理事の長屋京子さんに「ロゴスキーの一室を提供していただき、毎回明るい雰囲気の中で議事を進めることができ、誠に幸いであった。事業計画の第一は「会報」の発行であった。編集業務は当然さまざまなお仕事があるので、編集委員として清水副会長、理事の三井芳郎氏、上原辰夫氏、柳沢義祝氏、長屋京子さん、監事の横沢清人氏の六名にお願いすることとした。会報名については編集委員会に一任することとしたが、「日本ダボス」という真田町に相応しい名前を決めていただいた。会報名「日本ダボス」の由来については会報18号に現在顧問の清水清晴氏が詳細説明してくれているのでお読み願いたい。

初めての仕事のため編集委員の皆さんには大変なご苦労をお掛けした

が、平成元年三月二三日、無事創刊号を発刊した。創刊号の表紙には私一文を寄せ、東京真田町の会の永續発展と真田町との関係強化を願う旨を述べた。会報二号からは、表紙に真田町当局のご協力により、真田町の自然や歴史を彩る写真が飾られるようになった。この方針は現在も伝統として引き継がれ、会報「日本ダボス」は他に類を見ない独得の趣を備えている。

二〇年の歴史を回顧して先ず思うことは、理事の皆さんが夫々仕事を持ちながら、夕方六時から始まる理事会に出席し、熱心に議事について話し合ったこと、ふるさと訪問や真田祭り或いは真田町発足記念式典に幾度も参加したこと等である。往時を偲べば苦楽を共にした初代理事の皆さんの面影が、一人一人鮮やかに甦ってくる。しかし、一九名のうち、五名の方が二〇年のうちに幽明境を異にし、懐旧の念一入である。幸いにも真田町は人材に恵まれ、東京真田町の会は創刊号で願ったとおり、永續発展の道を進みつつあり、会報「日本ダボス」が今後とも会員交流の場として、継承されていくことを期待したい。



以上

## 日本ダボス第二〇 号発行に寄せて

旧真田町長 箱山 好猷



東京真田町の会設立二〇周年おめでとうございます。二〇年という長い年月、貴会設立と発展のために、ご尽力くださいました役員各位、ならびに、会を支え続けていただきました会員皆様に深甚なる敬意を申し上げます。

この間、皆様方は常に故郷真田町に温かいお心をお寄せいただき、力強いご支援を賜りましたことに対し、およそ九年間皆様の故郷をお預かり致してまいりました者として、厚く御礼申し上げます。

昭和三十三年十月一日、長・傍陽・本原の三村が合併して誕生致しました真田町は、四十七年余の星霜を重ねる中で、先人諸氏の智慧と努力により大きく発展して参りましたが、急激に進む少子高齢化の流れと、国

が進める三位一体の改革に伴い厳しさを増すことが予測される財政状況に思いを致し、一一、六〇〇余名の町民の幸せと地域の将来を展望して、住民の負担を大きく増やさないで住民サービスを継続し、誰でもが住みたくなり、住んでみてよかったと思える真田町を作るために、賛否両論で町内が激しく揺れる中で、多くの町民皆様のご賛同を頂き、平成十八年三月六日、上田市・丸子町・真田町・武石村が合併して、人口十六万四〇〇〇余名の新生上田市が誕生致しました。

この間、皆様方から戴きました数々の激励に深く感謝申し上げます。人間が生活する範囲を表す「むら」と云う言葉には、人々が自然に行き来する範囲を示す「自然むら」と、行政の都合により定めた「行政むら」とがあります。今回の合併は、まさに、この「行政むら」が「自然むら」と一体のものとなったものであり、歴史的に見ると必然の結果であります。

合併したと云つても、皆様の故郷は、小県郡真田町が上田市真田町となつて、行政的には変わりましたが、住民の日常生活には、何の変わりもありません。あの山もこの川も少しの変わりもなくそのまま、幼き日の夢の揺り籠は昔どおり暖かく里を包んでいます。これからも、掛け替えの無い故郷に、熱い思いをお寄

せ頂き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

合併したと申しましたが、合併は最大の行財政改革であり、地域づくりはこれからです。私達故郷で暮らす者は、今後も智慧と力を合わせて、真田町の限りなき発展を目指してまいります。私も、真田町長寿会(高齢者クラブ)会長として、高齢者の皆様、心身共に健康で生き甲斐を持つてかくしゃくと生き、できるだけ現役世代の負担にならず、幸せな老後を生きたるために微力を尽くしてまいりますことをお誓い致しますと共に、東京真田町の会の更なる発展をお祈り申し上げ「日本ダボス第二〇号」発行に当たつてのご挨拶と致します。

## 時代の変遷を

### 顧みる

元真田町長 若林 康朗



東京真田町の会の皆様、それぞれのお立場で、ご健勝で「活躍の御事」と拝察申し上げます。歳月の流れは、無情にも早く、一日の時間帯が異常に短く感じられる七十三年余の年齢になりました。時代の変遷に心する日々です。

顧みれば、昭和六十三年九月十日、念願の「東京真田町の会」が三百余名のご参加で、東京上野池之端文化センターで、設立総会並びに祝賀会が盛大に行われ、共々の親睦、融和、文化等々の交流を誓い合つた感動が、二十年に及ぶ今日でも、その感動を忘れることができません。

真田町制施行三十周年記念重要事業の一環として、当時、私が助役の職で、職務代理者として、故郷を離れてそれぞれの分野で活躍され、故郷を思う方々との頭脳交流環境づくりに、東京、神奈川、千葉、埼玉の都三県に在住されており、有力な方々のご協力を賜り、設立の運びになりました。

しかし「生む苦勞、育てる苦勞」共々当時の発起人の方々の、並々ならぬご努力に、畏敬の念の一語に尽きます。更に、翌年平成元年三月二十三日には、二十ページに及ぶ「東京真田町の会」会報「日本ダボス」の創刊号が発刊されました。これまた立派な会報で、会員の皆さんに会員の情報や、真田町の情報を提供する内容は、編集者のご努力に郷土愛

の情熱が伺えます。

今年その「日本ダボス」が節目の二十号記念発刊の運びで、歴代会長様始め関係役員の皆様には深甚なる敬意を表します。私も設立初年度から連続九回総会に出席させていただき、町政報告をさせていただき、また、又各種交流会にも出席させていただきました。本当にご指導、ご厚誼を賜り、今は懐かしい皆様を思い起こしてあります。又現役で立派な役職におられました役員の方で、不幸にして、ご逝去された方もおり、本当に無念で心からご冥福をお祈りします。

私も平成九年からは、「日本ダボス」十周年記念発刊のときに寄稿したぐらいで、格別皆様とお会いする機会もなく、又合併等で少々一抹の寂しさも感じます。しかし「日本ダボス」を拝読したり、故郷に帰られた方との交流で皆様のご様子をお聞きしております。

私もまだまだ若いと思いつつも七十四歳になろうとしております。余生をお世話になつた人々や社会にどれだけご恩返しできるか、日々の課題にしております。このころです。終わりに、東京真田町の会のいよいよの持続的な発展と、会員皆様様の益々のご健勝とご活躍を心からご記念申し上げます。



ふるさとを想う

皆様へ真田の里から

上田市議会議員

三井 和哉



「東京真田町の会」設立20周年おめでとございます。  
また、「日本ダボス」第20号という記念すべき号に拙い文章を掲載させていただきまことに感謝を申し上げます。

今年、昨年と市会議員として総会に出席させていただきましたが、実は私は過去3回、消防音楽隊として皆様にお会いし、演奏をお聴きいただいたり親しくお話をさせていただきましたいております。

初めてお伺いしたのは平成元年でしたから、第2回総会の席というところになるかと思えます。とても熱気のある会場で、しかも和気あいあいとした雰囲気だったことをよく覚えております。

昨年、今年と久しぶりに総会に出させていただきましたが、当時「君はこの息子か」「岡保の〇〇のうちです」「そうか、私は△△の〇〇の家だ」というような会話をさせていただいた方の何人かのお顔が見えず、20年も経つと生活環境面でも健康面でもお互い変わりますので、仕方がないのかな、という気がいたしました。少し淋しい気もしました。

ふるさと真田町の話題をひとつ。菅平根子岳の須坂市側の尾根沿いに民間発電業者が羽根を含めると高さ100m以上になる風力発電の風車を11基、建てるという計画が持ち上がっています。

地籍が須坂市ですので、上田市は直接関与できませんが、建設されれば菅平側から一望の元に見渡せ、地元とすれば無関心ではいられない問題です。

「自然景観を壊す」「巨大施設を造ることによって逆に環境破壊を引き起こす」という意見もありますし、「エコの象徴として観光振興に役立つ」という意見もあります。

最近の異常気象は炭酸ガス排出による地球温暖化が原因となっており、これは「気候変動に関する政府間パネル」の発表でも明らかかなわけですから、自然エネルギーの活用は真剣に、そして早急に考えなくてはならない問題ではありますが、ふるさとに思いをはせる皆様はどのように

考えますでしょうか。

最後に、去る8月4日に開催された「さなだ祭り」にご来場いただいた中島会長さんのお顔を見た際、まるで親戚のひとに会ったように嬉しくなったこと、同時に皆様のお顔を思い出したことをお伝えするとともに、「東京真田町の会」の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

おめでとございませう

おめでとうございます

上田市会議員 古市 順子



「東京真田町の会」設立20年、また「日本ダボス」第20号の発行、誠にありがとうございます。

私は今年6月に行われました第20回の懇親会に初めて参加させていただきました。本原出身の方を初め、皆さんに温かく歓待していただき、

大変楽しいひとときでした。その折の写真の交換もさせていただきました方もおります。心よりお礼申し上げます。

さて、新上田市も発足2年目となり、ようやく本格的に新市の計画ができてきました。9月議会で、

『文化の薫るまち』『やさしさあふれるまち』『夢あるまち』『希望と活力みなぎるまち』をつくりまします。という「上田市民憲章」が制定されました。また、第1次上田市総合計画「基本構想」「前期基本計画」「国土利用第1次上田市計画」が可決されました。

今回の合併は編入合併ではなく、新設対等合併ですので、新たにいろいろな計画がつけられています。また、合併時の4市町村の住民サービスなどの調整は、19年9月現在215項目が済み、3年以内で調整する項目が54、5年以内で調整する項目が11残っています。

市政の大きな課題として、平成17年6月工場閉鎖した「J-T跡地利用問題」上田広域連合で上田、東部、丸子のゴミ焼却場を統合して建設しようという「統合クリーンセンター建設問題」建設して40年経つ産院や医師不足に悩む長野病院など「お産と医療体制整備問題」などがあります。また、財政にも十分配慮して計画を進めなければならない状況です。

私達議員はこのような新市全体の課題を視野に入れながら、美しい自然と歴史に育まれたこの真田町の良さを守り、発展させるために努力してまいりたいと思います。

今、真田町は実りの秋を迎えました。お米やおいしい果物がたくさん収穫されています。会員の皆様は故郷を四季折々に思い出されていることでしょう。ここに住む私達、子ども達、孫達にとっても大切な故郷です。

「故郷は遠くにありて思うもの」であり、また「近くにありて創るもの」です。魅力的な故郷であり続けるよう、地域の皆さんと一緒にがんばりたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様にはますますお元気で、ご活躍されますようお願い申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしております。

## 茫茫八十年回顧

萩出身 柳沢 喜三郎

### 一、戦争中(S17～S20)

○わが運ぶ 土の一塊々々が  
遥拝所になるが嬉しき

全国から選抜され、将来、軍の楨幹となるべき将校生徒の精神的よりどころとして、遥拝所の構築作業に精を出した。伊勢神宮、宮城、故郷を遥拝する場所。学校は市ヶ谷から朝霞に移駐のため。

○凍みどけの 糞を喰いいる豚を見て 平然と笑う你的しぶとき

昭和18年12月から19年4月迄、第八八部隊に勤務。北満の地で大分寒い。你満人の別称)は家の周辺で用便、凍りついた大便の山が春先になると少しずつ解けてくる。それを黒い豚ががつがつ喰っている。あなたが平然としていたのが印象的。

### 二、故郷信州真田町の頃(S20～S29)

○情熱の燃ゆるがまゝに選びたる

益荒男の道に悔いは残らず

S21 1/4付連合軍最高司令官覚書により公職追放、G項該当(S22 勅令第1号)

國の為俺も男だ、戦うのだ、只それだけの思いで軍人の道を志し終戦となりはしたが、全然後悔はしない。然しそうは思っているものの、僅か二十一才の若さは如何ともやるせない毎日の連続、追放解除になる迄の約6年間は悶々の毎日でありました。

○今日も又 山にゆきて木を切れ

り かくの如くに老ゆる日思

○ためらひて終のなりわいと決めに

けり ゆだる暑さに田の草急ぐ

○凍てつきし 水車もゆるく回り初

め 山負う村の昼たけにけり

(於戸沢)

あの頃の田舎には、至る所に水車



小屋があり、米を搗いたり、小麦を精粉したりしていた。静かな夜、水車小屋独特のコトンコトンという規則正しく響いて来た音が今も脳裏に刻み込まれている。

○紅葉せる山の遥かに続く涯

紫紺の空に 富士の光り見ゆ

(萩、富士見公園)

### 三、終の住処(S30～) 御殿場

○ふるさとの山道狭くなりけり

時の流れに人は移りて

昭和40年ごろ帰省し、久し振りで昔よく出掛けた峰山付近の山を歩いた。昔のように山仕事も無くな

り、人通りも少なくなったのだろうか？昔あった山道も僅かにその面影をとどめているに等しい。淋しい限りだ。

○萱原の青きうねりは 涯もなし

空に際立つ 富士の山肌

広大な富士の裾野から見る富士山。萩の公園から見た富士山の遠望。遠くから見る富士山も美しい。近くから見ると富士山も又美しい。

○新薯をゆでし香りに父母と

暮らせし時を恋ひて年古る

両親健在の頃、新しい馬鈴薯を家中揃って、天地の恵みに感謝して食べた。あの頃が無性になつかしい。

○幾世紀春の訪れたしかなり

今年も土手に 土筆生え来ぬ

○ひこを得て早く歩めと祈りつゝ

同じ心の憶良を思っ

(ひこ)孫誕生

○若き日に呼子の町に散兵壕

防人われに還り来る夏

軍隊最後の赴任地は佐賀県呼子町。小隊長として部下を指揮し、米軍の上陸に備え、壕を掘った。あの夏の暑い日が毎年八月になると思い出される。

## 古郷の山の桜哉

上田市真田町横尾在住

鈴木 優

今日は「みかぎりし古郷の山の桜

哉」という一茶の俳句を中心にお話  
します。この句は、江戸、今の東京に出た  
一茶が椋鳥と呼ばれて、肩身狭く貧  
しく暮らしていた頃の俳句です。信  
濃の貧しく仕事の無い人たちは、江  
戸に出稼ぎに行きました。江戸の人  
たちは信濃の出稼ぎの人たちを、田  
舎者と馬鹿にして「椋鳥」と、あだ  
名で呼んでいました。「雪降れば椋鳥  
江戸へ食ひに出る」と、こんな川柳  
も残っているのです。雪がちらついて、田んぼに冬の渡  
り鳥「雁」が来るようになると、出  
稼ぎの人たちで村の人数がだんだん  
減っていく様子を、

田の雁や里の人数は今日も減る

と一茶はさびしく詠っています。一  
茶は出稼ぎではありませんが、同様  
に椋鳥とさげすまれていました。故郷に見切りをつけて江戸に出た  
一茶ですが、春になると、今頃は故  
郷の山は、山桜が咲いて美しいだろ  
うな。故郷の春を見に帰りたいとい  
う心を詠みます。

みかぎりし古郷の山の桜哉

一茶はさらに九州まで西日本各地  
に旅していますが、故郷を思う心は  
いよいよ強く、故郷を詠った俳句を  
たくさん作っています。

親里へ水は流るる春辺哉

春の野辺は暖かく、人もちらほら  
出はじめた。ふと小川に目を止める  
と、水は親の里、故郷のある北の方  
へ流れている。その懐かしい故郷柏  
原には、自分を喜んで迎えてくれる  
父はもういない。と云う、しみじみ  
とした気持ちを詠っています。かつ  
この声を聞くと、

かんこ鳥しなのこの桜咲きにけり

と、心は故郷に走ります。広々とお  
おらかな海を見ると、

亡き母や海見る度に見る度に

と、三歳のときに亡くした、故郷の  
亡き母を恋慕います。やがて五十歳  
の一茶は、

是がまあ終の栖か雪五尺

の雪深い柏原に帰ります。結婚して  
子供も生まれて、故郷での幸せな生  
活を始めますが、それも束の間、ま  
もなく妻や子に先立たれ、火事に遭  
い、焼け残った土蔵で暮らして、六  
十四歳で恵まれたとは言えない一生  
を終わりました。明治の歌人石川啄木も故郷を詠  
います。ふるさとの訛なつかし停車場  
の人ごみの中にそを聴きに行くかにかくに渋谷村は恋しかり思  
い出の山思ひ出の川その昔小学校の柁屋根に我が投  
げし鞠いかにかなりけむ幼い日のこんなことも、ふと懐か  
しく思う啄木です。けれども啄木の  
故郷は、啄木にとっても、そこに住む大人や子どもたちにとっても、決  
してすばらしい所ではありません。

田も畑も売って酒のみ滅び行く

ふるさと人に心寄する日

哀れかの私の教えし子等もまた  
やがて故郷を棄てて出づるらむ  
と、啄木が詠っているように、若者  
にも仕事のない貧しい村です。その  
上に、石をもて追わるる如くふるさと  
を出でし悲しみ消ゆる時なしそうゆう故郷ですが、それでもなお  
東京から故郷に帰る汽車の中で、

汽車の窓はるかに北にふるさと

の山見え来れば襟を正すも

ふるさとの山に向ひて言うことな  
しふる里の山はありがたきかなと、啄木は詠います。「血につながる  
故郷」と言いますが、他郷にある人々  
が故郷を思う心は、ここに住む私た  
ちには分らないほど強いものがある  
ようです。東京真田町の会の昭和63年の設  
立総会、翌年の九月二日の第二回総  
会は、出席者の皆さんの懐かしさと  
喜びに溢れた中に、打ち解けあつた  
和やかさいっぱいの会でした。この  
方々のために、やがて真田町を離れ

て国の内外で活躍するであろう子どもたちのために、私たち自身のためにも、この町をいよいよ発展させると共に、伝統と文化の香り高い風土と、美しく豊かな自然を大切に守り育てていくことが、私たちの務めであると思うのです。

(ここに掲載させて頂きましたのは、私の長兄が、昭和六十三年より平成三年まで、郷里の有線放送で「生活の中の古典」と題して流していた内容を冊子にまとめたものの一部ですが、東京真田町の会の設立総会に招待されて感動した様子が記されており、又、その内容も異郷に頑張ってきた私たちの胸に迫るものがありましたので、兄の了解を得て掲載させて頂きました。

理事 鈴木 邦子

## 白い花の咲く頃

萩出身 牧内 操



私は1930年生まれ、旧制長野

県上田中学校の最後の卒業生です。

小学校卒業までは東京にいましたが、中学校は父親の命令で上中を受験し、幸いにも合格、たった一人で東京から上田中学へ入ったのです。父は私のために常田の大宮神社の傍に一軒家を借りて女中さんをつけてくれました。米軍による東京空襲が激しくなつて学童疎開の始まる一年前でした。

中学三年生の夏、戦争は終わりました。終戦間近の東京大空襲で、家も財産もすっかり焼失してしまつた我が家は、家族12人(祖父、両親、兄妹9人)が父の実家がある傍陽村萩の古い家にひきあげ、そこで転落農家となつたのです。

私と弟は、父親と一緒にわずばかりの田畑を耕し、それでは足りずに山に入り、夏は開墾、冬は炭焼きの毎日となりました。

都会の金持ちから山奥の貧乏百姓に落ち込んで、つらく悲しいことばかりの生活でしたが、たった一つ良かったことは体が見違えるほど逞しくなつたことでした。

都会育ちの私は虚弱児童でした。それが毎日、粗食で朝早くから暗くなるまでみっちり肉休労働を続けていく内に筋肉隆々の若者になつていったのです。

戦争が終わつて三年近く経つた昭和23年、私は旧制上田中学校を卒業しました。新制高校には入りませ

んでした。

青雲の志やみがたく、父親の許しを得ず家族にも内緒で、未だ戦災の跡生々しい東京へ家出したのです。それは一七才の少年にとつて、とても辛い決断でした。

“ 白い花が 咲いていた  
ふるさとの 遠い夢の日  
さよならと 云つたら  
黙つてうつむいていたおさげ髪  
悲しかった あの時の  
あの白い花だよ ”

岡本敦郎が歌っていたこの歌を聴くたびに、淋しかった、悲しかった。・あの時の思いが胸の奥から甦つてくるのです。

その年の9月、大蔵省主税局の職員採用試験に受かり、同時に中央大学の夜間部編入試験に合格して、私は社会人としてスタートしました。三〇才の時、サラリーマンをやめ、税理士として独立しました。今は七十七才です。

## ふるさと便り

顧問 三井 芳郎

(上田市真田町大庭在住)

今年の郷土の話題をお届けします。真田町戸沢の柳沢勝輔さん(元中学

校教師)が世界のニュースになったことです。

今年の五月二十二日に世界の最高峰エベレスト(八、八五〇メートル)に最高年齢(七十一才と二ヶ月二日)で登頂に成功されたのです。正に世界記録としてギネスブックに登録されました。この事は日本のニュースと云うより世界のニュースとして報道されました。



真田公民館で九月十五日に講演会がありました。又、郷土史研究会で登頂成功祝いの会が行われ、私もお話を聞きましたので、その一部をお伝えしたいと思います。

柳沢さんは昨年の十月二日にヒマラヤのチョー・オユー(八、二〇一メートル)に登頂しました。そのとき頂上から見た景色はエベレストがすぐそこに手に取るが如く美しく見えたそうです。柳沢さんは家に帰ってしばらくして、あの美しく輝くエベレストに登って見たい、そして又、八千メートルの風に吹かれて見たいと思ひ、エベレストに登ることを決意

し、独りひそかに準備に入ったそうです。

出発の時も誰にも云わず、奥さんには「一寸行ってくる」と云って出掛けました。(奥さんに行先を云えれば必ず止められるので云わなかった。ただ、萬一の時の用意はひそかにして仏壇の奥に置いたそうです。) エベレストの頂上近くでは言葉では云えない苦勞をされました。雪と氷の絶壁を登るのでから大変です。一歩進むのに十五秒もかかったことがあります。高度七千二百メートル位から酸素マスクを付けたそうです。

そして遂にエベレストの頂上に立ったのでした。この世界一高い世界の屋根と云われる頂上の尾根は五、六メートルの長さでした。尾根のチベット側は急斜面で立ったり座ったり出来ません。尾根のネパール側の斜面は比較的平らなところが有り、畳で言えば五、六枚分のなだらかな斜面があり、そこに数人がかたまつて座って落ちないように注意していたそうです。

柳沢さんは一時間位、世界の屋根からの眺望を楽しみ、心地よい八千八百五十メートルでの風を楽しんで居られたのです。先生の嬉しそうな満足そうな笑顔が思い浮かべられます。

柳沢さんはベースキャンプに戻られて山岳本部に連絡しましたら、も

う頂上から無線で電話と写真が本部に送られてあつたそうです。柳沢さんは学生の頃より今日まで五十年間に亘り暇をみては登山を続けられました。身体は菅平で鍛えたと云って居られました。

柳沢さんの言葉……「山に登つたら生きて帰らなくてはいけない」、「もうだめだと思つてはいけない」、「もうだめだと言つてはいけない」。物静かで眼光鋭く、朴訥とした話し振りの中に柳沢先生のやさしく強靱なすばらしいお人柄が見られました。私たちは感動し、大きな励ましと元気をいただきました。

今年一年の生活の一端を歌にしました。お読みいただけますれば幸いです。

- 一、元日に神と仏を拝みたり幸多き年願をこめて
- 二、日の射すも凍れる里の座敷にて七草粥にからだ温む
- 三、千本の桜も散りて上田城真田の武者の合戦の跡
- 四、久々の友と白髪で語り合う眺める銀座東京タワー
- 五、老鶯にひかれて入る山の上姿はみせず声のするのみ
- 六、田植え終え峡の稲田は青くなり蛙の声に初夏を味わう
- 七、熊出たと実の秋に報じられ小さくなりて人は生活
- 八、山道の熊注意と云う看板を横に

- 九、見ながら行く茸狩り
- 夕暮れの空に突き出る守り柿しつと動かず寒に耐えるか
- 十、音もなく降りたる雪は一夜にて野山の道をかくしてしまふ

## 誕生祝

中横道出身 八木 五郎



木南先輩より『用件のみ、日本タボスの原稿のメ切10/10』のFAX入ったのが9/9日、翌日9/10日、満64歳になつちやつた。

現在の会社と町内会で記念品いただいた感激です。この七月に腰を疲労骨折した以外、内臓は良好、あつと云う間の63年間だったなあ……。

昭和34年、一、二年間の先輩の後初めて三年間の眞田中学校を卒業して、今は亡き井沢八郎さんの歌「あゝ上野駅」に合わせるかのように、三月末日、お袋さん手作りの布トナー組のチッキと一緒に夜汽車で一路名

古屋へ、上田駅の見送りは菅平陸荘の姉さん一人だった。駅を汽車がシユシユポッポ、シユシユポッポ、離れる時、いつの間にも涙が頬をつたわり落ちたつけ。ついこの間のように想う。

その年の秋、もろに伊勢湾台風に遭遇、とにかく強風と海水の被害、死者数千人を数えました。

会社の学校出していたら給料三万円也、日活の映画三本立50円、今の一万円より千円札一枚、とつても使いであつたなあ……

操業のないときのバイト、キッチン、ステーキハウスの料理に興味あつて、会社裏切つて転職して、名古屋で14年、千葉で三十年余、定年まで、この道で生きてきました。これも過去、現在の会社の諸先輩、兄、姉妹、亡き女房、数えきれない友人、仲間ありての力添えでここまで生きた事、感謝感謝です。

自分の健康管理で始めた成分献血が百余回、三十、四十年かかりましたが現在も更新中です。百余人の人助けのお手伝いが出来たことを自分で自分を褒めてやろうと思ひます。

来る十月十三日(土)は月一回の山登り隊、信州諏訪の守屋山1650mハイキング、下山して風呂に入つた後、隊と別れて、上田「治作」で待つてる小同級会に向かひます。

64歳のひよっ子、少しづつ育つて、生きますヨ！宜しくね！

## なつかしの傍陽駅

真田町大庭在住 内海 宏光



昨年、暮れも押し迫ったある日、真田町図書館に行った。部屋に入ると、前方の書棚上段に「なつかしの上田丸子電鉄」（銀河書房）と言う書籍が目にとまった。何となく手に取り頁をめくると、上田丸子電鉄の歴史、昭和12年当時の北東線菅平鹿沢線・真田・傍陽線。各停車場名を記載した路線図、真田・傍陽線時刻表等、思い出一杯の懐かしいグラフィックが次々と目を楽しませてくれた。（昭和47年2月9日に廃線された。）

早速閲覧室の机にじっくり座り、時間の過ぎるのも忘れ見入った。写真には傍陽駅を出発した電車が洗馬川の鉄橋を渡り、曲尾の踏切りを過ぎて、曲尾駅、そして横尾駅を通って本原駅へ、本の内容と私の記憶とが合作して、それが脳裏に描写され始めた。

小学校の遠足の際、「傍陽駅の情景」先生の「並んで静に乗れ」との

声に、電車に我先に飛び込み、窓際に席を確保したこと、電車が殿城口駅を発車すると、間もなく川久保の鉄橋そして、伊勢山のトンネルへ続く場面では全員で思わず口ずさんだ「今は山中今は浜、今は鉄橋渡るぞ」と思う間もなくトンネルの・・・♪♪。今は浜の部分を除くと正に、この線路の唱である様な気になり、大合唱となった情景が浮かんできた。その他、数え切れない程懐かしい場面に魅入られた。

正午ごろ図書館に入り、3時過ぎまで本を読んだが、見足らず、貸し出しを願ひ出した。

図書館の帰り、昔の線路跡を辿って見ようと、線路跡の道路を北本原から本原に下り、そこから傍陽線の横尾駅、曲尾駅と傍陽駅までゆつくりと車で旧電車線路沿いの道路を走った。北本原駅跡近くには駅前食堂が昔と変わることなく看板を上げ、繁盛している様子であったが、その他、駅があったと思われる場所には、今は何もなく、曲尾駅と傍陽駅間の「踏切り」では車を止めて、傍陽駅が見えるかな？と車を降りて眺めたが、見通すことは出来なかった。洗馬川の鉄橋跡には僅かに橋桁の跡があった。傍陽駅跡は何も無く人家となっていた。わずかに引込み線跡と思われる場所があった。私はそこに

立ち、しばし昔の思い出に浸った。

.....

それは、私が東京に就職が決まり、明日、上京する場面であった。家の居間には、お米を一斗近く入れたリユックサック。着替え、本等で一杯となったポストンバック。お金、転出届、米穀通帳等の書類を入れた腹巻、を整理して並べ、着ていく学生服の内ポケットには、東京の地図、省線電車の路線図等を入れた。土間には初めて履く皮靴を磨き並べた。革靴は兄からのお下がりで、大きくて「ばくばく」するが「宏の足は成長盛り、すぐびつたりになる。俺たちの若い時は、着るものも履くものも体を合わせたものだ」と言われ、そういうものかと自分なりに理解して、踵と靴の間に新聞紙を詰めてびつたりとさせた。

母から「上野駅に下りたら京浜東北線に乗り換えるので、山の手線に乗るだねえど！いいか、間違えたら一日中電車に乗っても同じ所をまわっていることになるから、それと東京に着いたら転出届は役場に出して、米穀通帳は近くの米屋に出すこと、間違えたらとんでもねえ事になるからな、辰ちゃん（兄）の家に着いたら宜しく言うので」と、「上野駅に着いたらどの電車に乗り換えるのか、転出届と米穀通帳の届ける場所を言ってみろ」と何回も言わされ、それでわざと間違え「上野駅で汽車

を降りて、山の手線に乗り換え、転出届は米屋へ、米穀通帳は役場に持って行く」といったところ、怒られてしまった。

こんな前日を過ぎし出発当日、早朝にお墓参り、仏壇にお線香を立て、家族全員に見送られて家を出た「とうやん、行くで」と言うのと、何も言わず、何回も頷いて悲しそうに笑っていた。もう一回「とうやん、行くで」と言う顔は笑っていたが泣いている様であった。私は泣きたい気持ちで吹っ切る様に家を出た。学生服の背中にはリュックサック、手には風呂敷包、履きなれない革靴と言う凄惨の出で立ちであった。

母が手ぬぐいの姉さんかぶり、もんべ、ぞうり姿でポストンバック持って送ってきた。集会所の庭まで来た時、私は近所の人の手前もあり、恥かしく「もうここまでいい」と母に言ったが「つまらねえ事、言うもんじゃやねえ」とポストンバックを硬く握り締め、離さず傍陽駅まで送って来てくれた。

母は駅に着くと直ぐ切符売り口に行き「傍陽駅から東京電環までの切符、大人一枚」と言っていた。私は「電車賃は持っているから俺が払う」と言うのと「つまらねえ事、言うもんじゃやねえ」と言い、切符を買い、渡してくれた。私は「かあやんのへそくりかえ？」と言うと「おめえは何時もつまらねえ事を言う。東

京へ行ったら、つまらねえ事を言うな！」と怒られてしまった。電車の発車時間まで、私は胸が一杯で母と何を話したのか記憶は定かでない。

電車は一番後の荷物室に乗り、リュックサック、ボストンバック、大きな風呂敷包みを台に置き、窓から外を見ると、母は引込み線の隅に、姉さんかぶりの手ぬぐいを手に持ち、こちらを見て佇んでいた。私は急に悲しくなり「かあやん」と呼んでみた。母には聞こえるはずもないが、母も何か言っている様であった。やがて発車のベルが鳴り、静かに電車は動き出し、鉄橋を渡り、曲尾の踏切へと差し掛かった。私は一瞬も目を離さず母を見続けた。踏切り前で汽笛が鳴り、電車が曲がり、母の姿は消えた。目を左上に向けると、そこには何時も変わらぬ太郎山が見えた。あの時、もし曲尾駅で降りて、踏切の所に戻ったら、母はまだ引込み線の隅で見送っていたかもしれないと思った。

上京して数年が過ぎて正月休みで帰省した際、台所にいる母に私の上京の際、引込み線の隅でいつまでも見送っていた母の事を冗談半分に「あの時は俺は曲尾の駅で降りて、踏切まで戻り、傍陽駅を見たら、かあやんがまだ立っているのが見えた」と言ったところ「本当か？」と一瞬目を輝かし、何かを思い出している様子であったが「ひろは何時まで経

つてもつまらねえことを言う！」と言ったが、料理を作る手を休める事はなかった。もしかしたら本当であったかも？私は「かあやん、ありがとう」と、つぶやいた。

・・・・・・・・・・・・・・・・

私は今、母が見送ってくれた懐かしい傍陽駅の、その場所に立ち、夕暮れを迎えようとしている。ふと、太郎山を見上げると、正に大きな日輪が山頂に沈もうとしていた。山の頂は一瞬輝き、間もなく後光の中にシルエットを現した。正に、「神宿る霊山」そのものであった。

その時、後光の端に、今は亡き父、母、そして小さい時、お世話になった親戚の春枝ねえやん、和守叔父さんの顔が見えた。日輪は沈み切り、やがて森羅万象に暗闇が訪れた。私は神々しい太郎山に頭を垂れて、手を合わせ、帰路に着いた。

## 追憶 二十年

萩 出身 柳澤 實

昭和六十三年、呱呱の声を発した私達、東京真田町の会は人生と重ねた時、ちょうど成人式を迎え、これは次へのステップ、スタートと考える。

来し方を展望した時、歴代会長並びに理事皆様方、更にはふる里真田

町、町民、助役、情報政策課の皆様方に私達六百余名の会員は庇護をいただき、充実感、一体感、満足感に浸る機会が得られたことは有難うの一語に尽きる。



この間記憶に残るイベントを追想すれば、平成四年、真田町の夏祭りに合せてのふる里訪問は煙火あり、子供御輿あり、町民と私達訪問者との輪踊りの共演は、見事なまでに融合し、出生が此の地に在る者のみが味わえる特権か、この宴には酔い痴れたのは私のみに非ず。

尚この旅には、大先輩清水清晴氏が同行され、私は多大なお世話を戴き、以来同氏からは数多くの文集を頂戴し、あの文に対する集中力、あのパワーは一体何処に潜んで居るのか、氏からは多くを学ばせて頂いている。

又、翌平成五年、信州博に合せた旅の集合写真を見た時、既に何人かの仲間が鬼籍に入られたを思う時、寂しさを禁じ得ない。又当時長期に亘り、旅行担当の任に尽力された萩

原啓治さんの存在を忘れる訳にはいかない。

当時バス旅行の行程は殆んどが神川沿いであり、平成十一年の旅は初めて洗馬川沿いとなり、実相院・傍陽地区ふる里公園への行程は私の希望と合致、思いが満たされた旅となった。

又年度は記憶の外になってしまったが、菅平高原一泊の際、菅平が出生の地である柴田小夜子さんの実家より、大量の高原野菜が提供され、私も遠慮なく頂戴、自宅へ託送、いただき物で近隣への土産の義理を済ませた幸運な年を体験させて頂いた。目を転じて総会宴席の幾つかを拾ってみよう。平成二年真田町民皆様による菅平太鼓、あの力強い打音は我が身に鼓動、その迫力に圧倒された。又平成九年真田町消防隊による吹奏楽は聴衆を魅了し、私は此処に至るまでの隊員皆様方ご努力を思わずにはいられない。この様に私たちの総会に、はるばるの故里真田町より大きな大きな花を添えて頂いたことに本当に感謝あるのみ。

尚、平成十四年、当時真田町町長箱山好猷さん、そして真田町の会鈴木木邦子さん、お二方のコンビによるコミックソング、麦畑を即興で演じたアドリブは満場の爆笑と拍手を誘った。

過ぎし二十年を振り返った時、私達会員は、東京真田町の会よりどれ

程多くの有形無形の心温かい幸せと心を満たして頂いたことか、唯々充実感で感無量。

東京真田町の会二十年おめでとう  
会報、日本ダボス二十号バンザイ

## チャオン会(戦友会)

### 千葉大会

顧問 清水 清晴

(中横道 出身)

平成十八年十月十一日より十三日までチャオン会秋の房総半島めぐり



二泊三日の戦友会に参加した。参加者は、岐阜の高山、群馬県前橋、伊那、岡谷、長野などから八十八歳を頭に八十四歳までの高齢者二十六名。東京駅八重洲口駐車場を午後一時に出発し、京葉道路、湾岸道路、千葉東金道路を経て九十九里浜片貝海岸「南風荘」に午後四時頃到着。

今年は何時よりも参加者が少ない。チャオン会は、昭和四十八年に、六十二連隊の主計兵と衛生兵が集い開催された記録があり、今回は同伴の女性の方が多く、宴会は午後六時より始まった、兵(つわものども)のにぎやかさ。

翌朝九時ころ南風荘のフロントに全員集合し記念写真を撮り車上の人となる。バスは、九十九里有料道路を進み、太平洋の荒波と地球の丸い事を感じて望郷一路御宿に向けて進み、御宿の砂漠記念公園に到着、小さい橋を渡るときに橋の下は海水と真水の交差したところ、と思いきや?大きな真鯉が多くいる中に小魚の群れも泳いでいるのに驚いた。この橋を渡り、砂に足を取られながら駱駝の像の所まで時間を掛けて歩く、歌にも知識が無いため、この歌はサバク地帯の外国の歌と想っていた。

月の砂漠を はるばると  
旅の駱駝が ゆきました  
金と銀との 鞍置いて

二つならんで ゆきました  
さきの鞍には 王子さま

あとの鞍には お姫さま  
駱駝に乗った像がそそり立っていた、そつと駱駝の足に触れてみた。赤銅だ、資料でこの作詞の、加藤まさをは、学生時代から毎年夏になると、御宿海岸を訪れていて、その印象をもとにこの詩を書き、佐々木すぐる

はこの詩に感動して曲をつけたとか。次は不思議のふるさと?鯛ノ浦へ、遊覧船に乗る、資料によると、鯛ノ浦は、昔より語り継がれている、三つの奇跡即ち「三奇瑞」それは日蓮宗の開祖としてなだかい日蓮上人が誕生したときに起こったと言われ、神秘に彩られた数々の奇跡のことで誕生水

蓮華ヶ潤 近くの砂浜で、ときならぬ蓮華の花が海辺一帯に咲き誇った。

### 鯛の出現

日蓮上人の誕生を祝福するかのよう、海面にマダイが群れをなして現れたとか。

乗船して近海上を一周して、帰港する手前で、船が停止した。どうしたのかなと思っていたら船員さんが小魚を入れた器を持って来て海面に投げると、船の回りに何百匹かの大きな鯛が餌につられて何処からともなく集まり見事な光景であった。

先にも書いたように、鯛の出現は、貞応元年二月十六日、日蓮上人の誕生のおり小湊湾内に、二、三尺もある大鯛が群集浮上し波間に銀鱗を踊らせて上人の誕生を祝したと言われておりますが、辞書などによると、鯛は深海性の魚とか・・・

昼食後、日蓮上人ゆかりのお寺、誕生寺に参拝、このお寺は日蓮上人の生家跡地に一二七六年に建てられたという由緒あるお寺、境内には徳川光圀が寄進した、十回本尊木造を安置する本堂や五十二本の太い樺の柱で支えられた祖師堂があり、私は朱印帳に「小湊山 蘇生延壽 誕生寺」のご朱印を戴いて来ました。

今度は宿舎より少し離れた、野島岬展望台へ向かう。バスの駐車場より歩くこと二十分くらい、年齢のせいか遠く感じたが、白浜のシンボリック存在と聞き、老骨に鞭打って野島崎灯台を目指す。この灯台は、明治二年にフランス人技師によって造られ、高さは二十九Mあるとのこと、この灯台を横目で見ながら足を延ばし「房総半島最南端の標識」を過ぎ、荒波打ち寄せる海岩をはいのぼり「房総半島白浜サンライズポイント・絶景・朝日と夕陽の見える沖」の木標にタッチ意を得たり。足はガタガタ・心臓はドキドキ、それでも満足感あり バンザイ

見学を終えて二日目の宿舎白浜グランドホテル大洋へ。一日の疲れを癒すため早速風呂に浸る。宿舎の前に見える岩山は、女来島と言う。海女さんたちが、貝取りに使用していた眼鏡をヨモギで拭きながら休憩した島のことで説明されていた。三日目は宿舎を午前九時に出発、左手にまた海波を見、さすが千葉だ

海だ、安房神社に到着、時間的に早いのか、神主さんや神子さん等、速足でアチコチ・・・

伝説によると、安房神社は、安房の歴史が始まった神社として、安房の国最大の神社で安房の国を築いた四国の阿波の忌部氏「古代の氏族、朝廷の祭司に奉仕伝承上の祖」が祖にあたる「天太玉命・アメノフトダマノミコト」が祀られているとのこと、参拝してご朱印を戴く。

次は、旧海軍航空隊の赤山地下壕跡の見学に足を運ぶ。地下壕入り口の手前の、事務所で、教育委員会の職員と史料される方から、見学者ひとりひとりにヘルメットが渡され、全員これをかぶる。壕の入り口で、小島さんがご説明をしてくださる。赤山地下壕は合計した長さが約一、六キロメートルと全国的にみても大きな壕で、館山を代表する戦争施設跡の一つであるが、この壕に関する資料はない。赤山地下壕は凝灰岩質の砂岩や泥岩など柔らかい地層が重なり形成されている。この壕は昭和十年代のはじめに、密かに建設工事が始まったと言う説もあるが、又昭和十九年以降に旧館山海軍航空隊の兵士たちによって、壕堀が始められたという複数の証言もあるとのこと。アメリカ軍の空襲が激しくなった、太平洋戦争の終わりころ、壕の一部が館山海軍航空隊の防空壕として使われていたので、壕内には発電所、

病室・電信室、などの証言があり、それと思われる箇所があった。

赤山壕の見学が終わり、今度はアメリカ軍が日本に最初に上陸した海岸—現在の海上自衛隊館山航空基地のすぐ近く—を訪れ、ここで、アメリカ軍が上陸用舟艇から日本の土地に、着剣し駆け足で上陸する様子の大きな写真パネルを見せてもらいながら説明を聞きました。

過去の軍隊生活を思いうかべ、感極まる・・・私の見たところ、この海岸は何の変哲もない、一般的な海岸なのに、米軍はどうしてこの海岸を東京湾の要塞・須崎砲台や大房崎砲台・館山海軍航空隊などを知り上陸したのかと思う。説明者が見せてくれたパネルの本が、赤山壕入り口の事務所所にあり、係員さんに購入を申し込んだところ「この本は見本だけで本屋さんにある」との返事でしたが、団体行動のため、本屋名もきかれずじまいで非常に残念でした。

バスはコース最後の東京アクアラインに入りました。この東京アクアラインは五キロメートルの海上橋と海底の下五十メートルの約十キロのトンネルで出来ていて木更津と川崎を十五分で結んでいます。

途中の海ホテルで休憩、屋上に昇り海面を一望、館山方向や大きなタンカー船を眺めて、その海底五十メートルのトンネルを走り午後三時すこし前に、東京駅表口に到着し「お

互いに健康に留意し、来年伊那で会いましょう」と約束を交わし解散した。

ふるさと、

## 原風景と私

上田市上田原在住 堀内 泰



私は、傍陽村下横道（現、上田市真田町傍陽）で産声をあげた。きょううだいは五人、いや正確にいうと三才で亡くなった姉がいるので六人きょううだいの末っ子である。つるあげの一番最後のキュウリみたいな、どこそこいじけた子だったので、親ばかりかご近所の皆さんにも心配をかけながら育った。そんな私もいつの間にか還暦を過ぎ、「次は古稀か」などと考える歳になった。

目を閉じると、ふるさとの懐かしい風景がまぶたの裏に浮かんでくる。屹立する天狗岩・未舗装の道路とそ

れに沿って流れる小碓堰・蟬石を運ぶ信陽鉦山のトラック。若かりし日の両親・子供だった頃の姉や兄たち。ご近所のおじいさんやおばあさん・おじさんやおばさん・青年団の皆さん・一緒に遊んでもらった仲間の子供達等々。私がこんな歳になつていふのだから、すでに故人になつた方も多い。生活は貧しくはあつたが、なんだか今の世の中よりも心は豊かで温もりがあつた様に思われる。

下横道から北に向かつて、中横道・上横道と集落が続く、それらの集落を縫うように道がのびている。

この道は山道を経て、保科（現、長野市若穂保科）へと通じているので、一名「保科道」と呼ばれている。私が小学生の頃に、前の家のおじいさん（先々代）が、「若い頃になあ。山を越えて保科の赤野田あかんたつう所へ行つて、獅子を習ってきた。それまでは、この辺の獅子はみな三ツ頭獅子だった。今の様に獅子一頭で舞うようになったのはそれからだ」と話してくれたのを思い出す。社会人になつて数年した頃、私は保科の赤野田を訪れる機会があつた。公民館の床の間に、古びた大きな獅子頭が飾られていた。聞けば現役を去つた獅子頭だという。すっかり忘れかけていた少年の日の記憶が、まざまざとよみがえつてきた。「これはきつと、前の家

のおじいさんが若い頃に習いに来た獅子頭に「違い」と思った。

生家から三・四十メートル北に行つた所に「番屋<sup>ばんや</sup>」と呼ばれる四ツ辻がある。車も余り通らなかつた頃、そこは子供達の格好の遊び場となつていた。そこから東に向かつて道がのび、穴沢・三島の集落を通り、菅平ばかりか大日向にでる山道もある。縦の道である保科道に対して横に開かれた道、これが「横道」という地名のおこりと推測される。

話を「番屋」に戻そう。先年私は千曲市にある長野県立歴史館に所蔵されている幕末期の上洗馬村(傍陽の田中より北にある六つの集落を範囲としていた村)の絵地図を見る機会に恵まれた。この絵地図を子細に見ると、四ツ辻の北東の一角に小さな建物の絵があり、そこには何と「番屋」と書かれているのである。番屋というのには、村に怪しい者が入り込まないように見張りの人が常駐する場所のことである。村人が寝静まつた時間帯に寝ずの番をするのであるから、この役に付く人はそれなりに腹が据わっていないとなかなか務まらない。若い頃に親には少なからず心配をかけ、村人には何かと迷惑をかけた様な人が、ある程度の年齢になったとき村の頭立ちの人に諭され、その任に付くことが多かったといわれているのもうなずける。そういう

人は、ある意味では人生経験が豊かなので、本来の仕事である村の警備の他、もめごとの仲裁や処理、また熱くなつて突つ走りがちな若者達の相談相手や話し相手になつてくれていたであろうことは推測に難くない。

番屋の南東の隅に大きな常夜燈がある。高さは四メートル強、真田町内では一番の大きさである。子供の頃には「夜燈<sup>やとう</sup>」と呼んでいた。自然石の台石に初めて登つて、お兄ちゃん達の仲間に入れた様な気がしてとつても嬉しかったこと、登つたはいいが下りられなくなつて泣いて近所のおじいさんに抱き下ろしてもらつたこと、彫られた文字を指でなぞつて遊んだり、柔らかい石を擦りつけて粉をつくつて遊んだりした日のこと等々が懐かしく思い出される。女の子だつて登つた。そうそう、あの常夜燈の火袋の穴をくぐり抜けた勇氣あるお兄ちゃん達もいた。あのKちゃんやIちゃん、私より二つ三つ上だったからもう七十近い歳になつてはいるはずだ。今、子供達がそんなことをしようものなら、とても周りの大人が許してはくれないだろう。そんなことをしていても、特別大げがをする子供はいなかった。古きよき時代だった。

先日久しぶりに番屋に行き、件の常夜燈を見てみた。塔身に「奉燈 石尊前 天保六未仲秋」と彫られてい

るので、今から百七十年ほど前の秋に造られたものであることがわかる。火袋の穴を計つてみると、縦横三十センチ余りである。「あの穴をなあ、よくも通り抜けたものだ」と改めて感心させられた。「石尊<sup>せきそん</sup>」というのは

天狗岩に祀られている神様で、そのはるか前方に造られたのが、この常夜燈である。かつて上ノ海戸(上の街道)からの川がしばしば洪水を起こし、それを防ぐ目的もあつて、この様に大きなものを築いたと聞いている。石尊は元々は神奈川県伊勢原市大山の阿夫利神社<sup>あぶりじんじや</sup>の神様、大山祇神<sup>おほやまづみのかみ</sup>で、農業の神・雨乞いの神といわれている。昭和二十年代の終わり頃(一九五五頃)までは青年団を中心に石尊の祭りが行われており、法螺貝を鳴らし御神刀で邪気を払つて、家々からお賽銭やお米などを集めていったと記憶している。刀のキラキラするのが怖くて、障子を細めに開けて覗いていたのがついこの頃の様だに思い出される。

とりとめのないことを書きました。東京真田町の会の皆さんに、ふるさとを、思い出すきっかけにしたいだけたらと思つています。

馬・軽井沢・曲尾・横尾・真田・横沢・大日向・上原・中原・下原)全ての絵地図が保管されていることを申し添えます。中には、一軒一軒のお宅の当主の名前の入っているものもあります。

## からくり人形と私

上横道出身 堀内 幹本



東京真田町会 20周年おめでとう  
ございます。

私も真田町を離れて早くも50有余年も立ちました。今更原稿依頼が来ても何を書いて良いか困惑する次第です。最近こんな生活をしていますぐらしいの事を書いてみます。

からくり人形と言われているものに3種類があります。一つは皆さんお馴染みの飛騨高山などの「山車からくり」が有ります。二つ目は茶運び坊主とか弓引き童子のような昔大名など遊びに使つた「座敷からくり」

です。そして三つ目がからくり人形が芝居をする桐生などにあつた「からくり人形芝居」です。ほとんど人は芝居からくりは観たことがないと思います。と言うのは現在芝居からくりは桐生と鹿児島の知覧にしかないと思われているからです。ちょうど今から10年前、この人形が発見されたときに、国立博物館の鈴木一義先生がこれを見て大変驚いたそうです。このような芝居からくりは江戸時代の末期に浅草の「奥山」で上演されてから完全に姿が消えていたのです。そんな人形芝居が桐生に残っていたのです。桐生では明治27年に桐生天満宮の御開帳に合わせて昭和36年まで6回上演された記録が残っております。

そんな人形の復元にメンバーとして携わるようになってしまいました。今までに復元した舞台は「曾我兄弟夜討ち」「巖流島の決闘」「忠臣蔵」の3舞台で、忠臣蔵については「移動舞台」にして各地へ出前公演をしています。実際お客さんに操作をさせて喜ばれております。復元作業の面白さや、公演の楽しさなどは実際にやっている人でなければ味わえないものがあると思います。曾我兄弟の復元では完全自動化にしようとして人形のからくりだけではなく、舞台装置のからくりも苦労した一つですし、この時はNHKの「小さな旅」で紹介されました。巖流島の決闘で

は昔ながらの水車からくりにしようというコンセプトにして水車とモーラの両用にすることで苦労しました。これもNHKが嗅ぎつけ、生中継しました。忠臣蔵の復元では本町第一町会の依頼で昭和3年の実現をしようと言うことで屋外舞台を作り、3月から4月にかけて舞台作り、いよいよ4月の第一土曜日日本番の日は曇り少し風が強かったのですが公演が始まりました、何回か公演をしたとき突然突風が吹き舞台の屋根が吹っ飛んでしまいました。この日の公演はこれで中止せざるを得なくなりました。そんなトラブルなど有りましたが、こんな我々の活動状況が先月18日にNHK「生中継ふるさと一番」で紹介されました。見てくれた人がいたでしょうか？ また11月15日には国土交通省の「地域づくり表彰」されることになりました。1次審査、2次審査が終わり全国から8団体まで絞られ、第3次審査は四十市に集まりプレゼンテーションで最終表彰されます。

70歳になった小生も現在こんな活動を楽しんでおります。桐生近郊にお見えの人は是非「桐生からくり人形芝居」を観に来てください。毎月第一土曜日には桐生市有隣館で実施しております。なお、団体で来られる方には市の観光課へ連絡すれば、会員何人か都合がつけば対応させていただきます。

## 二十年の今昔

元理事 長屋 京子

(菅平出身)



東京真田町の会が二十周年にも成らんとしている事に、改めてびっくりします。初回から理事のお仲間にお誘い頂き、皆様とお会いしたときは真田町のことなのに何も知らない自分にドギマギしました。

でも、理事会の打ち合わせ会でロゴスキーをお使い頂き、皆様にお会いできるので嬉しく存じます。あらためてこの場をお借りして御礼申し上げます。

終戦の年は小学校3年生でした。それまでは長野市内の母の実家で祖母に預けられ従姉妹たちとわいわい暮らし、高校も長野だったので、真田町から上田までの道のりしか分からず、以来長村菅平はダボスの高原からバスと上田電鉄に乗っての上田までの細長い地形しか頭になく、途

中、道が分かれ傍陽方面未だに行つた事がありません。真田町誌を見るようになって太郎山の裾に、こんな集落が点在していたとは思つたことです。中学生の頃もつと地理と歴史を教えられていたらと、最近こそ、真田幸村、今年は風林火山で長野の地理が面白く、真田の庄にいたつては昔の人々の苦勞を味わい、角間の忍者の面影を偲び、上田城跡や真田役場の周りなど平和な今を、役場の皆様によってさらに守り続け発展に努力されていることに、エールを送ります。

話は戻りますが、碓氷峠の汽車は窓を開けると顔がすすける、そして7時間かかつての上野、東京に来て50年、「ふるさととは遠きにありて思うもの……」と感傷に浸つた時代は彼方にかすんでいきました。今はハイテクの時代になり、あの山郷が上田市という名にくぐられて、此れからどんな変遷を辿っていくのでしょうか。

それにしても東京で雪を見なくなりました。四季がうすれ季節の感覚が寂しくなりました。そんな折、9月のはじめ菅平の裏ダボスの頂上に車で裏から回って芝生に座つた時、根子、吾妻、アルプス連山をぐる

つと見渡せ、ススキがなびき一面に秋の七草が変わらず咲き乱れ太陽の光を燦燦と受けて高原の紫外線が濃(二十三頁二段一行目に続く)

# 第二十回総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長 山口 元彦  
(横沢 出身)



皆様の声を支えに、これからも頑張  
つていこうと思います。

市長さんをはじめ市の皆様も、ど  
うかじつと見守って下さるようお願  
い申し上げます。

### 【母袋創一上田市長の挨拶概要】

二十回という大きな節目にご案内  
をいただきありがとうございます。

つい先日は、真田町出身の柳沢勝輔  
さんが、世界最高齢でエベレスト登  
頂をなさり、私どもにも元氣と勇気を  
与えてくれました。

新しい上田市も二年目に入り、新  
市の一体感作り及び他の市町村との  
新たな連携と交流という二つの観点  
で努力をしています。例えば、いろ  
いろな所と姉妹都市になったり防災  
協定を結んだりし、先頃は大阪市と  
城郭連携協定を結びました。また、  
上田城千本桜のライトアップをして  
二十六万人の観光客を集めました。

先人が築いてくれた偉業を引き継  
ぎ発展させたいと願っていますので、  
どんどんご意見をお寄せ下さい。

真田町会の発展と皆様のご健勝を  
お祈り申し上げます。

### 三 懇親会の部

【塩沢和政顧問の歓迎の挨拶】  
本日は、市長様、議長様をはじめ、

### 一 開催日、出席者数等

【開催日】平成十九年六月十日(日)

【場 所】アルカディア市ヶ谷  
六階「霧島」の間

【出席数】会員七十五名、市から市  
長様、議長様、議員様三名等九名

### 二 総会の部

【式次第】①「信濃の国」斉唱、②  
会長及び上田市長の挨拶、③平成十  
八年度会務報告、会計報告及び監査  
報告の承認、④平成十九年度事業計  
画及び予算の決定

### 【中島正江会長の挨拶概要】

これまでの会長さん達ほかの皆様  
のご苦勞により、当会も二十周年を  
迎えることができました。総会への  
出席を楽しみにして下さる方たちは  
勿論のこと、いろいろな事情で出席  
は難しいが、広報誌に載る町の様子  
などが懐かしく、写真を切り取って  
壁に貼っているというお手紙を下さ  
った方もおられ、役員一同は会員の



多数の方々が、お忙しい中をおいで下さり、まことにありがとうございます。新上田市も発足して一年が経過しました。市の皆様はいろいろな苦勞されていることと存じますが、どうか潤いのあるふるさとであり続けられるように、ご尽力下さるようお願い申し上げます。

今日は楽しくお過ごし下さい。

【土屋陽一上田市議会議長の祝辞】

第二十回総会おめでとうございませう。市議会は、明日から一般質問が始まるのですが、本日は、真田町出身の三人の議員も全員出席しております。

ふるさとを思う気持ちは、ここに集まっている方々はひとときわ深いと思います。新しい上田市の一体感作りの意味で、お祭りも各地域のものをまとめて、「上田夏まつり」として八月上旬に行うことになっておりますので、皆様がおいで下さることを期待しております。

なお、先日菅平の山開きの際に、箱山前町長さんにお会いしたところ、皆様によろしくとのことでした。

【柳澤喜三郎氏の乾杯の音頭】

二十周年の節目にあたり、会長をはじめ役員のご苦勞と行政の皆様のご支援に感謝を申し上げます。かつて八戸に勤務した際、鮫の港の魚市場のにぎわいを見て大変元気が出たことがあります。それにもまして元氣をもらっているのはこの真田町



の会です。その基は役員の方々の努力であり、深甚なる感謝の意を表します。皆さんも会に出てきて、元気を補給していきましょう。

【アトラクション】

梅后流かつぽれ用賀道場のみなさんが、浅草大音頭の曲と会場の手拍子に乗って入場、伊勢音頭、奴さん、かつぽれ、よさこいなどの踊りを披露して下さいました。

【二十周年記念抽選会】

二十周年を記念して抽選会を行いました。限られた予算の中で少しでも喜んでいただけそうなものを探して実行委員があちこち見て回り、一等から四等まで二十三名分の賞品を用意しました。市長さんをはじめ市からおいで下さった方々に札を引いていただき当選番号を決めました。

また、市からも記念品として「幸村ゆかりの充優品(特産品)セット」十組をいただきましたので、特別賞ということで会長が札を引き、十名の当選者を決めました。

どれにも当たらなかった人には参加賞が配られました。

【大団円】「真田郷」の輪踊り、みんなの手をつないでの「ふるさと」の斉唱の後、深町共栄監事の閉会の挨拶によりお開きとなりました。

開会直前から大雨になり帰りが心配でしたが、終了時にはすっかり上がっており、ホッとしました。



# 各部の活動報告

## ☆ 親睦旅行

期日：19年11月11日～12日  
 参加者：男11・女8・計19人

行程：1日目 新宿駅西口安田生命ビル前（9：10）～首都高速初台～中央高速諏訪IC～諏訪大社（上社参拝）～おぎのや諏訪店（昼食）～北沢美術館（ガラス工房）～諏訪大社（下社参拝）～白樺湖「ホテル山幸閣」着（16：30）宿泊



2日目 午前自由行動（白樺湖周辺散策）Ⅱ（昼食）「ホテル山幸閣」出発（12：00）～ビーナスライン車山・霧ヶ峰経由にて近郊ドライブ～信州のさわなセンター～諏訪IC～中央高速經由首都高初台～新宿駅西

口着（16：30） 担当理事 金子誠



紅葉シーズンの旅でしたが、信濃路に入ったとたんの雨、真田町の会は雨男、雨女ぞろいなのかも・・・マイクロボスの中では、柳沢（實）さんのチョコ付きの貴重な資料：小県地方の方言集やボケない小唄にボケます小唄・・・が配られ、大いに盛り上がりました。いつものお心ずかいに本当に頭がさがりました。夜のうたげはカラオケで盛り上がり、部屋に引き上げての二次会もにぎやかに晩秋の湖畔の湯の宿は静かに更けていきました。

翌朝の秋冷と言うよりは初冬の湖畔の散策は、酔い覚めの頭をすっきりさせてくれましたが、ブルツ、とくる感じの寒さに、信州の高原の冬

の厳しさを再認識させられました。（武捨記）

## ☆ スポーツ

### ◎ ゴルフ同好会



2007.4.11 富岡CCにて

2007.10.5 富岡CCにて



恒例の春季親睦ゴルフ大会は4月11日、富岡CCで開催された。参加者15名（会員のみのみ）、天候は嘘！と

いう様な晴天でした。

入賞は優勝：永井哲夫、準優勝：堀内幹本、三位：堀内 福、ベストグロ：堀内 政、女性・シニア部門賞：堀内幹本の各氏でした。



2007.5.26 春季MG大会

2007.10.13 秋季MG大会



また秋季親睦ゴルフ大会は10月5日、富岡CCで開催、天気は春に続いて晴れの好天気で真田町の会のゴ

ルフは雨のリンクスも終わりかも：参加者は13名で、優勝：永井哲夫（連勝）、準優勝：堀内 福、3位：佐藤宏次、ベスグロ：堀内 福女性・シニア部門賞：武捨衛人の各氏でした。

### ◎ マレットゴルフ

春の大会は5月26日男性5人、女性4人の参加で開催、優勝は昨秋に続き滝沢けさ子さん、準優勝にご夫君と完全に滝沢デーで、三位は実力者の大久保治夫さんでした。

また秋の大会は10月13日、9人（男性5、女性4）の参加を得ていつもの新座のマレットゴルフ場で開催、優勝：岸 俊子、準優勝：大久保きよ、三位：滝沢けさ子さんのご夫君の各氏でした。

担当理事 荻原啓治



富岡 CC アウト1番

（十八頁四段目最終行から続く）

い色を与え、里では見られない美しさ、萩、ススキ、桔梗、なでしこ、おみなえし、ふじばかま、もうひとつはわかりませんでした。その後、台風が来たので、さぞあわれな姿になってしまったのではと想いを馳せています。ふるさとの山はいつまでも愛おしいものです。年を重ねるとゆっくりものを見る目が出来てきたのに、時は新幹線のように走り過ぎている日々。

東京真田町の会が世代交代しつつも、ますますの発展を信じ祈り上げます。

## 一枚の写真

眞田出身 荻原 學



昭和一桁生まれの時代、物を大切に、何でももったいないと育てられ、それが身について離れない、現在では美徳どころかガラクタ扱いで、自

分でも何でこんな物をと苦笑する。本類もその例で、一度は目にしてはいるが忘れてしまっているものも多い。あれ、こんな写真が掲載されている、しげしげ見入る。「会報 日本タボス」NO15 平成十四年十二月発行、「郷愁をそそる想い出の学舎」長、傍陽、本原の自分たちが学んだ懐かしい学舎の全景写真のものである。

今思えば、帰省の折にカメラを向けなかったことが惜しまれてならない。校舎や校庭、また周辺。写真を見るとそれぞれに想い出が蘇る。先ず校庭でのことである。小石掃除？間隔をおかず一列に横並び、かがんで自分の前の小石を素手の両手で前へ払う様にして押し出しながら進む、そんな清掃もあった。また運動会、早朝の徒競走は冷たくて、素足の裏が痛くて、上手く走れなかったものだった。楽しみは昼に精一杯のご馳走を持参して、年一回の学校に足を運んでくれた両親と家族皆で昼食を食べた事だ。秋日和の好天気、嬉しく楽しい一日だった、疲れたが。

区の対抗もあり、皆が総出の村民運動会では、特別に陸軍の突撃模擬訓練をよく目にした。また各競技に区民の団結力は強く、選手は必死に走り、応援する皆も声をからして一生懸命だった。

高学年になり我々も軍事教練と称して足並みをそろえての行進なども

あり、体制が軍事一色、全てがお国の為の時代だった。

運動会を思い出すと「異歌、信濃の国」が浮かぶ。信濃の国は十州に：聞き慣れ、歌いなれた歌詞とメロデー、一生懸命に合唱した。秋の夕日が西に傾き、楽しかった運動会も終わった。これで秋も終わりかと思つたものだった。

教室での想い出、音楽のあの先生は、何か気に食わぬことがあると、二本指で頭に突きを入れるのが特徴で、容貌も恐かった。終戦後のある日、「今日は進駐軍が来るから外には出るな」そんな先生の指示、ジープに乗ってカーキ色の軍服のスマートな二人の進駐軍が降り立った。その様子を皆固唾を呑んで見つめていた。ほどなく帰ったが何も起こらなかった。初めて見た外国の人達である。また、六年生の時、突然廊下で担任の先生に呼び止められた。「これを○先生に渡して来てくれ」と封筒を渡された。途中こっそり中の手紙を見てしまった、何か別れ話の様だった。さぞかし先生達も悩みがあったのだろう。

写真には写っていないが、下方に位置する場所の田圃の中での集合写真が一枚ある。四年生の時か、よく見ると違いはあるが同じ様な顔が並び、人気のある先生ではなかったと思うが、先生の発案であろう集合写真は、数少ない小学校の貴重な一枚

であり、感謝々々である。あの先生は、同級の友は、今いかにお過ごし、健勝を祈って止まない。

最近「信濃の国」のルーツで思わぬ記事を目にした。一八九九年、長野師範学校現在信大の教師が小学校向けに作詞し、女子のダンス用に作曲、師範学校の卒業生が各地の学校で教え、明治百年の記念事業で県歌に制定されたそう。また県議会でのこと、信州の地域間での対立が激しく分県論が激化、採決されようとした時、傍聴席から「信濃の国」の大合唱が起こり、結局分県論は流れた。実話だそうである。

NHKの大河ドラマはよく見る。本年は「風林火山」、主人公の武士、山本勘助の足跡をたどった地名紹介で、「真田郷」として我が故郷が映像で放映された。本城、戸石城、山家神社、お屋敷、上田城等、懐かしさも有り自慢でもある。

(平成十九年三月)

## 何々ちゃんに

### 逢えるかな

曲尾出身 丸山 廣義

私は傍陽の山の中で、小学生頃は戦後の食糧難の中に、そして悪ガキ時代の中学生、昭和二十七年に卒業

しましたので二七会と称し、同級会を毎年田舎の温泉場を中心に開催しています。

毎回顔馴染みのメンバーが多いので、あそこが、ここが、痛いとか、何々の菓を飲んでいるとかいいながらも年に一度の再会には誠に楽しいものです。しかし時には寂しく悲しいことですが一人か二人の訃報を聞くことがあります。その反面素晴らしい再会もあるのです。何十年ぶりとか、卒業以来と云う再会、始めは顔と名前が一致せず、戸惑いを感じたりしますが、宴が酣になる頃には、彼方、此方で「何々ちゃん、何々ちゃん」と言い合って、大きな笑い声が聞こえてきます。



こんな川柳を思い出します。引用させて頂きますと「白髪でもちゃんと呼び合うクラス会」正にこの川柳がピタリ、こうした出会い、再会があるから生きている素晴らしさ、喜びがあります。春の光を全身に浴びている様な幸せを感じますと同時に明日への大きな糧となっています。

「人間五十年、下天のうちを比ぶれば夢まぼろしの如くなり」これは信長が好んだ敦盛の一節であるが、今は八十才代が平均寿命、第二の人生を歩みつつある私達、どうか二七会の皆さん、そして東京真田町の会の皆さん、こうした会が催された時は、一人でも多く出席され、再会出来た幸せと喜びを、新しい出会いの楽しさを味わいたいと思います。

さて来る年には、どんな顔、顔、何々ちゃんに逢えるのだろうか…。私にはもう一つの出会いがあります。それは(特別な曲)と云うテーマの作品で、今年十一月に《船橋よみうり》に投稿したのですが、披露させて頂きます。

#### 「愛情物語」サントラ盤

学生の頃に見た映画で、タイロン・パワーとキム・ノヴァク主演の「愛情物語」がある。その主題曲「トゥ・ラブ・アゲイン」はショパンのピアノ曲「ノクターン」をアレンジしたものだそうだ。私の心の奥にいつまでも残り、この歳になっても、映画の場面や自分の青春時代を思い出す人との出会いも素晴らしいが、音楽との出会いも豊かな気持ちにしてくれる。

あの頃は、今とは違い、聞くだけのラジオが中心だったこともあり、映画音楽が若者の心をとらえた。「シエーン」「エデンの東」など、数え始めると限りなく思い出される。どれ

も私の心をとらえ生きる糧となる忘れられない曲だ。夜長の今宵、久しぶりにレコードでも…。



(上田城の桜：丸山廣義氏提供)

## 「日本ダボス」 20号

### おめでとー

#### ございます

下原出身 森田 文子

故郷を離れて36年、真田町は忘れた事ありません。夫の転勤に従っ

て九州、広島と住み、家のある千葉県市原にやっと落ち着きました。

会には数回しか参加しませんでした。だが、毎年送られてくる「日本ダボス」が楽しみです。同級生の名前を見つけると、なつかしきでいっぱいになります。

遠くに居るのをよい事に、父母の事は兄たちにかかせつきり、看病もせず、見送っただけでした。

長い間患つてた母は「あんたは今できる事を精いっぱいやりなね、兄ちゃん達がよくしてくれるから、心配いらないよ」と言っていました。

三人の娘も嫁いだ今、父母にしてあげられなかった分までと思い、病院でボランティアをしています。認知症のお年寄りのお話し相手やリハビリの介助をしたり、次は私達が介護してもらおう番かなと思いがら・・・。

私に今できる事を精いっぱいと思、畑を借りてのお花や野菜作り、又好きで始めた踊りなど、充実した日を過ごしています。年に一度は墓まいりに行っていますが、お米や、つけものなど沢山いただき、「また来いやれ」と見送ってくれる兄達、兄嫁達、ふるさとついでいいなと幸せな気持ちになれます。

最後になりましたが「東京真田町の会」のご発展と「会報日本ダボス」のご発展をお祈り申し上げます

## 真田まつりに

### 参加して

会長 中島 正江

(戸沢出身)

上田まで近くなつたとはいえ、やはり上田へと思えば胸がどきどきして来るのは私だけでしょうか？8月のこの夏の異常な暑さ、東京駅もその日は42℃43度あつたでしょうか、息苦しくなりました。

新幹線に乗ってしまうと外の景色はあまり見えませんが、かい間見る景色、あゝ今はどこどこだと、次は：と思いつくと思つていると上田駅、真田方面行きのバスは10分前に出てしまい、一時間以上待たないとバスが来ない。上田と真田は遠くなつたような気がします。せめて新幹線の時刻に合わせて下されば良いのにと、一人ぶつぶつ。タクシーで地域センターへ、夜まで時間があつたのでいつものようにふれあい真田館でおそばを楽しむ。

日暮れと共にそちこちから人、人、ランドいっぱい。土手には花火見るとため敷物引いて宴会を始めている人達もいっぱい。通路には屋台と子供みこしの出番を待っている大人も子供もハッピーを着てハチマキしめて、とても勇ましい。

舞台では色々なショーをやっている。真田太鼓の演奏が終わり、来賓の紹介が終わるとランドでは子供みこしのワッシュイ、とても元気。終わって民謡流し、参加して真田郷等踊る。又鉄砲隊の模範演技、すごい音でした。

舞台上で東京真田町の会の会長として初めて紹介され、名前を呼ばれたのを石舟の宮島さんが聞いたとの事で、テント迄訪ねて下さいました。真田中学の事務をして下さっていた宮島みさ子さんの弟さんでした。とても懐かしく、ひととき昔話に話が弾みました。とても嬉しかったです。そこへ元会長の三井芳郎さんが今日はお家が泊まっていたとの事、お言葉に甘え泊めてもらう事にしました。

花火も各社協賛、個人でされた人も、東京真田町の会もスターマインと云う花火を協賛しました。

太郎山へ消えていった真赤と云うか、オレンジと云うか、太陽もとてもすばらしかったが、夜空、星がすぐきれい、久しぶりの見上げた空、しばしみとれる。月が又とてもきれい、空気がきれいなんですね、そこへ花火、何ともきれいな事、思わず「玉屋」とか声をだしてしまいました。

花火に見とれて、浴衣を着ていたんですが、ぶよに刺されたのを忘れていたみたい、足首に参拾教箇所、

とてもかゆい、何十年ぶりでしょうか、ぶよに刺されたのは：

三井さん宅に着いてまず薬を頂きつけ、三井奥様と一年ぶりでのお話、都会より帰られてからも、地域のために色々お役に立っておられる様子とても勉強になりました。

翌日はご夫妻の手作り野菜を頂き、畑も見せて頂き、年々お野菜も立派に作られていて、すごく感激致しました。

こんな生活が出来て羨ましいなあーっていつも思っております。紙面をお借りしてお礼申し上げます。お元気で町のためにもご活躍を祈っております。

さて、私、帰るなり病院へ直行、虫刺され薬を頂き、こんな年をとった足でも食いついたぶよ、今頃しまったと思つているかも：来年は私の足にいくつかなないようにね、美味しくないよと。

## 親睦旅行に

### 参加して

田中出身 館野 清實

今回初めて真田町の会の旅行に参加させて頂きました。

新宿に集合でしたが、真田町の会の皆さんの姿が見つからず心配であ

つちこつちうろろしましたところ、金子さんに声かけられてほっとしました。バスに乗ると総会でお会いしていた方々がいます。安心してました。一人の方が地下に買物に行きバスに戻って来るのがおそく心配のさわぎになりましたが…安心。



バスが走り始めた頃、雨がぼつぼつ窓に当たってきましたが、バスの中は生まれ育った田舎の方言遊びで、にぎやかな時間でした。

首都高…中央道スイスイ走り、たのしみのおぎのやのおひる食も時間まち…、では、諏訪上社へと、雨がぼつぼつ降ってましたが大勢のお参り客でした。亦この日は七五三のかわいい男の子、女の子で、私は自分の子育て頃を思い出し、我を忘れてかわい子供を見ました。

食事をいただきガラス工房へ、雨も上がり、写真もとっていたら、下社に向いました。ここには、上社にも有りましたが、素晴らしい菊の展示がありました。私も若い頃に少し手がけましたが、本当に立派な菊

ばかりでした。

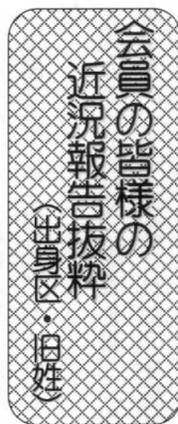
今日一日目の全行程が終わり、ホテル山幸閣につきました。大きなおふるに入り、一日のつかれもとれ、夜の食事、宴会となり、歌あり、おどりありでお酒をおいしくいただきながら、田舎にいた時の思い出話を語り合い、本当に楽しい夜の一時でした。

二日目の朝は、早く外に出てしらかば湖のまわりを少しあるきました。風がためたく雪もちらちらでホテルに入り、おひるの時間までおへやで亦々、若い頃の話が始まり大笑いでした。

おいしいおそばをいただき、朝の雲もなく、抜けるような青空に変わった十二時にホテルを出発、車山の素晴らしい景色をしっかりと目にやきつけて、ビーナスラインをおりて来ました。私も六十才ぐらいまで長野の北・中央・南アルプスにのぼり、山大すきです。

バスの中から日本一の富士山も見え、帰りの中央高速もすいすいで新宿着も予定より早く、楽しいたびは終わりました。

親睦一泊旅行に参加させていただき、二日間の楽しい思い出が出来ました。真田町の会の会長さん、幹事をして下さった方、本当にありがとうございました。



1 青木 進(横尾)

残念ながら今回は欠席させて頂きませんが、郷土出身の皆様の益々のご活躍を祈念しています。

年を重ねることに身体のあちこちにほころびが出ています。今日この頃です。

2 荒木廣之(下原)

東京真田町の会の益々のご発展を祈念申し上げます。

3 金子和子(大日向・一之瀬)

お世話様です。一年過ぎるのが早いですね。今年は都合がつかず欠席させて頂いていただきます。

昨日まで斑尾高原で信濃の春を満喫しておりました。山桜、つつじ、藤が咲き、それは美しく信州に故郷を持った幸せを感じました。会の発展をお祈りします。

4 岩下 弘(下塚)

益々のご発展をお祈りします。

5 堀籠道子(中横道・上原)

真田町の会の益々の発展を祈念いたしております。

5月9日～6月15日迄40日間の南洋クルーズに乗船の為、残念ながら欠席とさせて頂きます。

6 友部きよ志(下横道・内川)

体調不調のため欠席します。皆様

に宜しくお伝え下さい。

7 柳橋米子(下横道・内川)

いつもお世話様になっております。日本ダボス楽しく読ませて頂いております。老人会の行事と重なり残念です。楽しい会になりますように。

8 田中静江(大庭・内海)

何年か欠席いたし申し訳ございません。今年は今から楽しみにして居ります。いつも日本ダボスご送付頂き、なつかしい田舎の風景、小川も山々もすべて心にしみ入ります。大庭を出てもう60年になりますのに古里とは不思議な所です。

鳥帽子岳の写真すばらしかったです。切り取って飾ってありますが、

でも私の心の中は秋晴れの日に大庭の家の角から見る鳥帽子は日本一だと想っています。

9 内海辰三(大庭)

当日は都合がつかず欠席させて頂いていただきます。年をとりましたが、まあ元気で暮らしております。

10 内海宏光(大庭)

信濃はNHK大河ドラマ「風林火山」フィーバが吹き捲りすごい!!! 私も地元の「真田町郷土史研究会」また「山城探索Ⅲ」に入会して真田三代の足跡を辿る日々です。

11 大久保袈裟明(大日向)

細々と年金生活を楽しんでおります。皆様宜しくお伝え下さい。

12 大庭今朝女(大日向・大久保)

年に一回の真田町の会、今年もまた参加させて頂く幸福をかみしめております。ボケ防止と健康維持のため

めに社交ダンスを始めました。

13 荻原 學(眞田)

危惧されている地震災害に備えて市の社協の災害ボランティアや町内会の防災組織本部の活動に参加し、また登校児童を街頭で見守るボランティアなど奉仕活動をしています。

14 岩井泰子(中原・荻原)

新緑の美しい季節となつて来ました。役員の皆様いつもお世話になつております。故郷のなつかしい顔々とお会い出来るのを楽しみに出席し、散会の際はまた来年の出席を約束して帰るのですが、今回は色々な用事が重なつて参加出来なくなつてしまいました。残念ですが欠席します。よろしくお願いいたします。

15 清水なか子(曲尾・海瀬)

何時もありがとうございます。その頃一寸都合が悪く失礼致します。

16 清水甫子(田中・金子)

幹事の皆様大変ご苦勞様です。ぜひ出席させて頂きますのでよろしくお願ひ申し上げます。お逢ひ出来ることをたのしみしています。

17 神林勝夫(竹室)

初めての出席なので、よろしくお願ひ致します。

18 神林公三郎(竹室)

都合に依り欠席致します。ご盛會をお祈り申し上げます。

19 野間亮子(横尾・北沢)

いつもご案内を頂きありがとうございます。なかなか親睦会等に参加できるようにならなくて、忙しく過ぎてしております。何時も元気に暮ら

せることに感謝しつつ、皆様の御多幸を願っております。

20 中村洋子(田中)

役員さんいつもお世話様です。毎年楽しみにしております。出席しますのでよろしくお願ひいたします。

21 久保新一(角間)

長村が真田町になり、上田市になつて、故郷がだんだん遠くなるような気がします。ご盛會を祈ります。

22 倉島安三(角間)

役員の皆様さまご苦勞さまで。今回腰の調子が悪いので欠席させて頂きます。

23 倉島今朝二(角間)

役員の皆様には大変お世話になつております。今回もこの日を楽しみにしてしますのでよろしくお願ひします。

24 古市 始(眞田)

病氣静養中で失礼します。皆様に宜しく。

25 小宮山 寛(横沢)

ご無沙汰して居ります。年齢とともに出不精になりました。

26 福島愛子(中組・斎藤)

遅くなりましてすみません。94歳の姑がおります。今年はお休みさせて頂き下さい。来年皆様にお目にかかれる事を願っております。

27 岡村貞江(中組・斎藤)

東京真田町の会の役員の皆様にはいつも一方ならぬお世話になつております。今年こそは参加したいと思つておりましたが、先日足を痛めま

して医者通いをしておりますので残念ですが欠席とします。

28 坂口照雄(十林寺)

元気で千葉県在住45年です。京葉工業地区市原市はゴルフ場銀座という程温暖で暮らしやすい土地です。鉄工場を経営しています。

29 森田文字(下原・坂口)

役員の皆様にはお世話になります。今年はお出したいと思つておりましたが、60の手習いで「おどり」などを始め発表会の日と重なりますので欠席します。

テレビの「風林火山」のドラマの影響か、真田町出身と云うと「どんな所？」と興味を示されます。

30 佐藤輪子(下横道・坂口)

いつも色々とお知らせ戴き有難う御座います。またいかれる時がありましたら出席させて頂きます。

31 笹沢けさむ(横沢)

毎回お世話様でございます。ふるさと通信が届き大変なつかしく見させていたただいております。眞田町の会も益々楽しい会になります様、たのしみしております。

32 椎名己津男(横沢・山口)

いつも大変お世話さまで。昨年は出席させていたいただき楽しいひとときを過ごさせていただきました。今回は町会の行事と重なつてしまいがちですが、役員の皆様はじめ会員の方々によりしくお伝え下さい。

33 小林公江(大日向・塩沢)  
何時もお世話になつております。所用の為残念ですが欠席します。

34 山本俊雄(大日向・塩沢)

お世話になります。有難く感謝しております。

35 塩沢英巳(大日向)

会報及びしらかば通信をお送りして頂きまして誠に有難うございました。この度は都合により欠席させて頂きます。年会費は兄弟の塩沢六士郎分と合せまして計二、〇〇〇を会口座に振込させて頂きました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

36 渋沢芳三(横尾)

相変わらず元気ですが、歩行困難ですので失礼します。皆様によりしくお伝え下さい。

37 清水清晴(中横道)

老人会や戦友会などの総会で遅くなつて申訳ありません。出席の皆様によりしくお伝え下さい。まあまあ元気です。

38 山口久子(曲尾・清水)

連絡ありがとうございます。変らず元気に過ごしております。皆様のご多幸とご健康をお祈り致しております。連絡頂く度に町の様子、ふるさとを想い出します。

39 荒木好水(曲尾・清水)

いつもタボスをお送り頂きありがとうございます。足の手術をしてから遠出が出来なくなりました。残念ながら皆様にお遭ひ出来ません。今

後もよろしくお願い致します。

**40 杉崎寿三(男菅平)**

役員さんにはご苦労をおかけしております。今回はどうしても顔を出せません。皆様方によりしくお伝え下さい。益々のご発展をお祈り申し上げます。

**41 鈴木郁夫(横尾)**

オートマタ(西洋からくり人形作り、はげんでやっております。ご興味のある方はホームページを！  
<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusai/>

**42 鈴木邦子(横尾)**

いつもお世話になっております。最近健康のため体力づくりに専念しております。

**43 関谷道義(戸沢)**

御蔭様で元気でやっております。

**44 南雲圭子(竹室・高寺)**

毎日医者通いをしています。年と共に体の悪い所ばかりを数えるようになりました。盛会をお祈りします。

**45 鈴木民子(竹室・高寺)**

緑の美しい季節になりました。総会も20回目との事、月日のたつのが早くびっくりして居ります。

どんな方にお逢い出来るか楽しみです。お世話になります。よろしく  
お願い致します。

**46 川内知恵子(竹室・高寺)**

すっかり年齢を重ねてしまい仲々外出がおっくうになってしまいました。いつもお誘い有難うございます。会ヒ18年度19年度分同封いたしました。

す。宜しくお願いいたします。

**47 田中恒夫(横尾)**

皆様大変ご苦労様です。都合が悪く欠席させて頂きます。皆様方によりしくお伝え下さい。

**48 塚田 靖(菅平)**

公職は全て終わったのですが、なかなか「毎日が日曜日」になれません。今年度から「日本音楽教育文化振興会」の役員にさせられ、しばらく働かされます。皆様によりしくお伝え下さい。

**49 桜井和子 (下横道・中沢)**

古希を迎えましたが何かとやる事が多く、元気で充実した日々を過ごしております。

**50 中沢欣勇(下横道)**

御返事遅れて申し訳ございません。当日午後より会合があり、時間の都合上出席出来ないかと心配して居りましたが、何とか出席できる事になりました。よろしくお願い致します。

**51 山本道子(大庭・成沢)**

役員の皆様今年もお世話になりました。一年早いですね、大勢の方達と懐かしい言葉でお話出来る事楽しみです。

**52 井出道子(下原・南條)**

役員の皆様方ご苦労様です。私はまだ現役で仕事をしております。昨年は欠席しましたが、今年に参加させて頂きます。本原のみなさんの出席が少ないので淋しいですね。

**53 平田金子(岡保・橋詰)**

いつもお世話様です。よろしく  
お願い致します。

**54 橋詰吉万雄(中組)**

昭和19年春傍陽小学校終了後毎年行われる同級会が続いております。今年も東筑摩郡の草湯温泉に行つて来ました。真田町の会でも同じ同級生が5、6人おりました。毎回楽しみにしている会です。役員の皆様には大変お世話になります。

**55 花岡節雄(横尾)**

この度会長就任大変おめでとう御座います。ご活躍をお祈りします。

**56 斎藤かね子(上横道・半田)**

いつも御連絡有り難うございます。今年こそ是非出席したいと思つてましたのに、今年も又舞踊のおさらい会とぶつかつてしまい残念です。

**57 半田喜章(中横道)**

何時もお世話様です。残念ながら都合が悪く参加出来ませんが、最近風林火山等、テレビドラマで上田、真田を題材としたものが多く、懐かしく見えています。ご盛会をお祈りします。

**58 半田幸一(田中)**

役員の皆様御苦労様です。昨年も欠席したので今年は何としても出席したかったのですが、家内の体調が悪く様子を見守ってきたのですが、残念ながら欠席と言ふことに決めました。申し訳ございません。ご盛会を祈りながら乱筆にて失礼致します。

**59 滝沢富士子(下横道・半田)**

真田町の会永く続きます事をお祈りいたします。出席できませんが、何とか元気で日々過ごしております。

**60 半田幸弘(中横道)**

老化した元気がありません。

**61 古畑忠彦(眞田)**

3月31日付で定年退職し、船橋市行田3-9-6、103より上記住所に転居しました。したがって「東京真田町の会」を退会となりました。これまでありがとうございました。

**62 井上かつよ(田中・堀内)**

爽やかな季節となりました。役員の皆様御苦労様です。今回もお世話になりますので宜しくお願い致します。

**63 館野清實(田中・堀内)**

毎年楽しみにして出席しています。

**64 所 けさい(中横道・堀内)**

息子たちも帰省の度に、色々な所での「信濃の国や六文銭」との出会いを話しています。

**65 堀井けさ子(田中・堀内)**

遅くなって済みません。出席できませんのでよろしくお願い致します。いつも御苦労様です。

**66 久野けさ志(中横道・堀内)**

何時も役員の皆様には大変お世話に成ります。年を重ねることに、故郷の山や川が人々等を懐かしく思い出させてくれます。当日は都合が悪く欠席させていただきます。

**67 堀内茂雄(中横道)**

幹事御苦労様です。

68 勝田昭子(田中・堀内)  
きょうは5月17日? 10日までにとあるのにおくれてしまつてどうもすみません。

69 堀内照美(上横道)  
10月からの民営化に向け、毎日忙しい日々を過ごしております。

70 堀内寿美(上横道)  
東京真田町の会の為に、何時もご尽力を誠にありがとうございます。早いもので総会も20回となつたんですね。今年も盛会であるといいですね。頑張ります。

71 堀内寅次(中横道)  
楽しみにして居りましたが急用が出来、残念ながら欠席となります。

72 堀内秀夫(下横道)  
体調がすぐれず一人では外出もできませんが、家では元気にしています。旧年も参加できませんでしたので今年こそは! やはりだめでした。来年こそは参加したいです。小学校の同級会が同じ日にありますが参加できません、残念です。

73 小林正子(下横道・堀内)  
皆様お元気でいらつしやいますか? 総会に沢山の方がご参加くださると良いですね。皆さんにお会いできる事を楽しみにしております。お世話になります。よろしくおねがいいたします。

74 堀内幹本(上横道)  
幹事さん、役員さん御苦労様です。今回も出席できません。皆様による

しく願ひします。

75 山本美江(下横道・堀内)  
いつもお世話さまです。残念ですが先約があり欠席になります。皆様によるしく願ひします。 合掌

76 牧内隆志(戸沢)  
会報日本タボスを何時も拝見させていただいています。なかなか都合がつかず出席出来ませんが、皆さんのご努力に感謝しています。

77 小山末江(萩・牧内)  
お世話になっております。6/10は発表会(踊り)と重なり欠席させて頂きました。

78 牧内 操(萩)  
埼玉県の川口市長野県人会・会長を16年間務めやつと後釜が決まり退任してホツとして居るところです。

79 岩崎みち子(菅平・正木)  
2月に長男に孫が誕生しました。本当に家族の宝物です。いつも大変お世話になります。

80 松尾 昭(眞田)  
最後まで調整つかず残念ながら欠席させて頂きます。御盛会をお祈りしています。申し訳ありません。

81 松沢 信(大日向)  
いつもご連絡頂きありがとうございます。諸行事等にもなかなか参加する機会がなく残念に思つております。会員の皆様方のご健勝をお祈りしております。

82 丸山廣義(曲尾)  
又皆様とお逢い出来ますことを楽

しみにしております。

83 田中弥作(菅平・纒沢)  
引越の為お返事がおそくなつてすみません。宜しく願ひ致します。

84 三井史子(中組)  
今年も出席出来ずすみません。丁度この時期、仕事が忙しい時期になつてしまひすみません。皆様にヨロシク

85 三井芳郎(大庭)  
色々多忙ですが、東京真田町の会総会と聞けば無理をしても出席したくなります。故郷を愛する皆さんにお会いするのを楽しみにして居ります。

86 塚田加代子(横尾・宮崎)  
残念ながら所用があり欠席致します。5月の連休には眞田に行き、山の恵、たらの芽を取りてんぷらで頂きました。懐かしい故郷の味でした。

87 宮崎十人(菅平)  
いつもお世話さまです。残念ですがイベントが重なり出席できません。よろしく願ひ致します。

88 長屋京子(菅平・宮沢)  
いつもご苦労様です。今年のアトラクションにも魅力を感じますが前後重なることが多く、又々欠席ごめんさい。広告の件はいつものよう願ひ致します。

89 宮下毅士(眞田)  
昨年は母の一年祭に合せて、日立にお墓を建立しました。今年も娘たち家族と同居するという事で、新

しい家を建てています。今年は4回マラソン大会に参加して10キロコースを完走できました。家族皆の健康と元気に心より感謝しています。ありがとうございます。

90 我孫子てる子(眞田・宮下)  
腰痛でなかなか出て歩けません。欠席させて頂き。皆さんにお会いしたいのですが、よろしく。

91 壬生とりよ(戸沢・宮島)  
出席出来ませんが東京真田町の会の御発展をお祈りいたします。

92 宮本 優(大日向)  
会長の大役、同級生の中から出てとても嬉しくおもいます。ほんとうにおめでとう。

93 武捨昭二(中組)  
この時期、学校の同窓会等仲間の集いが集中し、重複も有り、申訳ありませんが欠席させて頂きます。眞田会の千葉の集まり、今年すでに2回参加(新年会、桜見)しております。

94 武捨久男(中組)  
老齢の上、眼の手術直後のため欠席いたします。

95 武捨幹男(中組)  
毎度お世話さまです。

96 武捨衛人(中組)  
いろいろな事に手を出してボケ防止に取り組んでいます。パソコン・ゴルフ・カラオケ・ウォーキング等々、上達はムリでも現状維持でOK:じやないといつも上を目指しています。

97 望月正幸(横沢)

役員の皆様方ご苦勞様です。今年  
は旅行と重なってしまい出席できま  
せん。宜しくお願ひ致します。

98 森本幹生(入軽井沢)  
色々な事が重なってきませんが、個  
展、コンクール等出品しています。  
皆様の健康を切に願っています。盛  
会でありますように！

99 八木五郎(中横道)  
アッチコッチと動き回ってます。  
体調がいい事、亡き両親に感謝です。  
献血歴96回は現役、自分を褒めたい  
です！。

100 佐藤ムネ子(眞田・矢島)  
いつもお世話様でございます。是  
非出席したいと思っております。是  
当日息子夫婦が結婚式に出席のため、  
私は孫達と留守番をしなければなら  
ず、残念ですが欠席します。盛会を  
心よりお祈り申し上げます。

101 柳沢郁政(戸沢)  
大変御世話をいただきありがとうございます。  
御座います。久しぶりに出席いたし  
ます。よろしくお願ひいたします。

102 柳沢喜三郎(萩)  
馬齢を重ね84才となります。おか  
げ様で元氣です。皆さんと御会い出  
来ることを楽しみにしています。

103 松井志づ江萩・柳澤  
皆様にお会い出来ます事楽しみに  
して居ります。

104 柳沢俊美(戸沢)  
都合が悪く欠席します。  
105 宮田マキエ(戸沢・柳沢)

高齢期に入り、精神的、肉体的に  
不調を感じ、毎日が他の人々に御迷  
惑をかけない様心して生きておりま  
す。すこやかにこの世との別離を希  
望し、大事を取って今回は失礼し、  
思ひ出を追ひつつ頑張つて居ます。  
どうぞ皆様によろしくお伝へ下さい。  
老人福祉を30年以上行つて来、最後  
の人生を美しくと心して居ります。

106 佐藤昌江萩・柳沢  
今年もどうぞよろしくお願ひ致し  
ます。楽しみにしております。  
107 山口和明(大日向)  
病氣加療中につきやむなく欠席致  
します。

108 山口敬一(大日向)  
都度ご案内をいただいております  
が、出席できない状態です。若者の  
出席が少ない？ようですが、なぜ？  
年会費未納ですので早急に払込み  
致します。

109 山宮敏男(入軽井沢)  
生まれ育つた故郷は懐かしく思い  
出します。会の発展と皆様の御多幸  
をお祈りいたします。

110 安田美智子(入軽井沢・山宮)  
しらかば通信ありがとうございます。いつも  
御世話になって居ります。又元氣で  
楽しい眞田町の方々にお会いできる  
日が楽しみです。よろしくお願ひし  
ます。

111 浅水みち子(入軽井沢・山宮)  
会長さんはじめ役員の皆さんいつ  
も有り難う御座います。元氣でウオ

ーキングをしています。4月で4千  
キロの記録認定を受けました。これ  
からも元氣で日本中を歩きたいと思  
います。

112 大橋けさ子(菅平・山本)  
役員の皆様ご苦勞様です。総会も  
もう20回になるんですね。楽しみに  
しております。

113 横沢武典(大畑)  
いつも大変お世話になっておりま  
す。ご連絡が遅くなり大変申しわけ  
ありません。宜しくお願ひ致します。

114 山田優佳(大畑・横沢)  
いつも大変お世話になっておりま  
す。ご連絡が遅くなり大変申しわけ  
ありません。宜しくお願ひ致します。

115 横沢義雄(大畑)  
4/29(日)上田眞田まつりにい  
て来ました。同時に角間温泉、長谷  
寺にも寄つて桜が満開で一番良い時  
に見ました。私も自治会の仕事が大  
変で、総会には出られませんが皆さ  
んによろしくお伝へ下さい。

116 滝沢けさ子(赤井・若林)  
いつもお世話に成ります。マレッ  
トゴルフは新座市で行います。近い  
からいつも参加しております。大変  
楽しんでおります。

117 若林正春(大洞)  
会費未納しています。出席当日お  
支払いたします。2年分か？宜しくお  
願ひします。

118 若林 豊(赤井)  
都合により欠席します。申し訳あ

りません。

☆☆☆☆☆☆ 宇宙のダイヤモンド・・・モノスゴクたくさん有るらしいです ☆☆☆☆☆☆☆

宇宙で一番沢山ある星は、太陽ぐらいの大きさの水素の核融合反応によって光り輝いている星だと言われ  
ています。満天に輝いて見えるこれらの星たちは、約百億年の核融合反応によって原料の水素ガスを使い果  
たし、輝きを失って地球ぐらいの大きさの炭素を主成分とする白色矮星になり、見えなくなりなります(星の  
死)が、主成分の炭素は白色矮星誕生の環境条件から見て、ダイヤモンドになっていると想定されています。

学問の世界ではダイヤモンドを通過してきた光の存在が証明されているので、宇宙ダイヤモンドの存在は  
疑う余地がないようです。宇宙には1,000億の1,000億倍の桁の光り輝く星がありますが、宇宙のい  
ろいろな観測事実から見て、その10倍程度のダークマターと呼ばれる見えない物質が存在すると言われてい  
ます。この中には沢山の白色矮星も含まれていると考えられ、もしかすると世界中の人々が、夜空を彩る満  
天の星の10倍以上の数の地球の大きさのダイヤモンドをそれぞれに分け合ったとしてもまだ余るかも知れま  
せん。お宮さん、ダイヤモンドより貫一さんを大事にするべきだったのでは???.....(武捨衛人記)

～会員消息～ (敬称略)

<住所変更>

石巻 伸夫	〒110-0003	東京都台東区根岸	2-11-6	TEL03-5603-2226	(曲尾)
石巻千恵子	〒110-0003	東京都台東区根岸	2-11-6	TEL03-5603-2226	(曲尾)
山崎 静次	〒410-0022	静岡県沼津市大岡	500-6	TEL055-963-0963	(横尾)
横山たか子(横沢)	〒131-0033	東京都墨田区向島	1-14-7	TEL03-3623-4344	(大畑)
吉田 光代(浅野)	〒344-0000	埼玉県春日部市武里団地	6-6-103	TEL0487-35-7675	(横尾)

<退会>

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。  
 倉島 茂一・倉島 徳一・小市 利雄・小林 孝子・斎藤 静江・庄司みつ子・古畑 忠彦  
 細田かね子・松井 平三

<逝去>

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。  
 荒木とく子・荒木武太郎・内海 卯市・太田 実・小島 君子・関根 繁夫・原 里江  
 丸山 昭吾・横沢 昭一・坂口 豪

<転居先不明> 清水袈裟和・豊田 陽子・村田ヒロ子・市川 渡

<番地不明> 小市 益雄

次回総会の予告

平成20年の総会、懇親会は5月25日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお待ち申し上げます。  
 詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第12号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成19年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願ひ致します。

広告御礼

日本ダボス第20号の発行にあたり広告をお願ひ致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、一九年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまます。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願ひ申し上げます。

連絡先 中島 正江

〒158-0091 東京都世田谷区中町四一三五―一七E

TEL 03-3702-1385  
 Fax

.....投稿・寄稿のお願い.....

日本ダボス21号・しらかば通信12号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは2,400字以内、しらかば通信は800字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人  
 〒359-1145 埼玉県所沢市山口5040, 39-5-405  
 Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

## 平成18年度 決算報告書

H18年2月21日～H19年3月13日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	650,000円	267,200円	総会費	1,300,000円	788,155円
総会懇親会費収入	1,300,000円	820,000円	会報発行費	500,000円	378,840円
上田市補助金	300,000円	300,000円	事業費	500,000円	127,919円
広告収入	750,000円	315,000円	事務通信費	400,000円	176,548円
寄付金等収入	150,000円	10,000円	印刷費	150,000円	24,100円
利息等雑収入	67,273円	67円	会議費	200,000円	145,034円
			渉外費	150,000円	90,000円
			交通費	100,000円	15,000円
			雑費・手数料	50,000円	16,965円
			予備	150,000円	—円
当期収入合計		1,712,267円	当期支出合計		1,762,561円
前年繰越額	282,727円	282,727円	次期繰越額		232,433円
合計	3,500,000円	1,994,994円	合計	3,500,000円	1,994,994円

上記の通り収支決算報告いたします。平成19年3月13日 会計 堀内 寿美 印  
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 印  
 監事 堀内 幸 印

## 平成19年度事業計画

- |  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| ① 第20回総会及び懇親会の開催（平成19年6月10日）               | ⑥ ふるさと訪問の実施                       |
| ② 会報「日本ダボス」第20号の発行                         | ⑦ ふるさと特産品の宅配協力                    |
| ③ 広報紙「しらかば通信」の発行                           | ⑧ 真田地域との交流促進のため、各種文化・スポーツ行事の実施と参加 |
| ④ ホームページの運営                                | ⑨ 会員の店マップの発行                      |
| ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等<br>会員相互の親睦をはかる行事の実施 | ⑩ その他                             |

## 平成19年度収支予算

平成19年4月1日～平成20年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	650,000	総会懇親会費	1,300,000
総会懇親会費収入	1,300,000	会報発行費	500,000
上田市補助金	300,000	事業費	500,000
広告収入	750,000	事務通信費	400,000
寄付金等収入	150,000	印刷費	150,000
利息等雑収入	117,567	会議費	200,000
		渉外費	150,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	50,000
前年度繰越金	232,433	予備費	150,000
収入合計	3,500,000	支出合計	3,500,000

## 「東京真田町の会役員名簿」

(平成19年12月25日現在)

職名	氏名
会長	中島正江
副会長	飯島慶三郎 山口元彦 柴田小夜子
理事	監事 深町共栄 堀内幸
	事務局長 (山口副会長兼務)
	会計理事 堀内寿美
	荻原啓治 金子誠 木南和世 鈴木邦子 堀内福 武捨衛人
顧問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政

祝 東京真田町の会 —会報20号—



**ROGOVSKI**  
ロシア料理 渋谷ロゴスキー

ブラザ店のご案内

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>  
E-mail : [rogovski@rogovski.co.jp](mailto:rogovski@rogovski.co.jp)

副社長 調理部長 **長屋京子**

セントラル キッチン 東京都世田谷区弦巻5-14-25  
03(3428)7284 FAX03(3426)4466  
自宅: 03(3428)4194

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では  
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが  
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

室料(貸切り料)、サービス料  
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665

渋谷駅南口バスターミナル前  
渋谷東急プラザ9F・味の名店街



# TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,  
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

- Mr. Children
- ケツメイシ
- BUMP OF CHICKEN
- RAG FAIR
- ゆず
- melody.

株式会社 トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

## 人と地球に思いやりある環境づくりを目指して 資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

ISO9001・ISO14001 認証取得

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

# みすゞ興業株式会社

代表取締役 **荒木 廣之** (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

# 祝 東京真田町の会 —会報20号—

## 東京真田町の会

副会長 **飯島 慶三郎**

(下原出身)

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 2-33-18

☎ 042-221-8594 携帯 090-3514-3502

FAX 042-221-8594, 042-248-8833

土地・建物・測量・登記

飯嶋測量事務所

土地・家屋調査士 **飯嶋 義道**

(中組出身)

〒230-0072 神奈川県横浜市鶴見区梶山 2-38-11

☎ 045-581-0324 FAX 045-571-8432

## 東京真田町の会 理事

一級建築士 **荻原 啓治**

(四日市出身)

〒168-0063 東京都杉並区和泉 4-42-32-301

☎ 03-3315-5930 携帯 090-8442-2317

FAX 03-5305-3755

## 東京真田町の会

理事 **金子 誠**

(田中出身)

〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156

☎・FAX 048-591-4728

## 東京真田町の会

理事 **木南 和世**

(中横道出身)

〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北 7-9-9

☎ 047-482-4528

貿易物流研究所所長

東京真田町の会

顧問 **小林 孝雄**

(曲尾出身)

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5

☎ 045-843-8041

## 齋藤指圧治療院

**齋藤 勇一**

(真田出身)

〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10

シャポール東松原 301号

☎ 03-3322-6622

ビューティサロン テラ

東京真田町の会

副会長 **柴田 小夜子**

(菅平出身)

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 1-32-13

☎・FAX 03-3467-4035

## 東京六二会戦友会会計理事

## 東京真田町の会

顧問 **清水 清晴**

(中横道出身)

〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2

☎・FAX 03-3489-0763

オートマタ(西洋からくり)製造・販売  
いくさ工房

**鈴木 郁夫**(横尾出身)

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7

☎・FAX: 048-864-0295, mail: s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp

http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/

## 東京真田町の会

理事 **鈴木 邦子**

(横尾出身)

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町 17-12

☎・FAX 03-5970-6969

メナード化粧品 等々力駅前代行店

## 東京真田町の会

会長 **中島 正江**

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E

☎・FAX 03-3702-1385

# 祝 東京真田町の会 —会報20号—

新鮮青果.com  
真田近郊の新鮮な野菜・果物等をご用命下さい

代表者 中島 偉 充

Yorimitsu Nakajima

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E

☎・FAX 03-3704-7875

E-mail: info@shinsenseika.com

URL: http://www.shinsenseika.com

埼玉工業大学工学部電子工学科教授

東京真田町の会

理事 深 町 共 榮

(田中出身)

〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82

☎・FAX 048-572-7150

株式会社東都財務情報センター  
堀内税務会計事務所

堀 内 茂 雄

(中横道出身)

〒130-0002 東京都墨田区業平 4-9-4

☎ 03-3625-2291 FAX 03-3621-0164

東京真田町の会

理事 堀 内 福

(下横道出身)

〒350-1308 埼玉県狭山市中央 3-7-L203

☎ 04-2958-1578

東京海上日動火災保険株式会社 代理店  
東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店  
堀内インシュアランスサービス

代表 堀 内 寅 次

〒337-0032 さいたま市見沼区東新井 939-64

☎ 048-685-5282 FAX 048-687-9122

携帯 090-1120-4058 http://www.tokio\_nichido.com

東京真田町の会理事

司法書士 堀 内 寿 美

(上横道出身)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-20-19

東洋ビル 402号

☎ 03-3379-9182 FAX 03-3379-8714

東京真田町の会

理事 堀 内 幸

(下横道出身)

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 7-20-18

☎ 045-773-6733

東京真田町の会

顧問 三 井 芳 郎

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510

☎ 0268-73-2616

東京真田町の会

理事 武 捨 衛 人

(中組出身)

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

☎・FAX: 04-2949-4776, mail: m-musya@nifty.com

国画水墨院理事

(元)日本選抜美術家協会常任理事審査員  
国画院会員

森 本 幹 生

(入軽井沢出身)

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8

☎ 044-733-0267

御殿場市・小山町  
長野県人会

顧問 柳 沢 喜三郎

(萩出身)

〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2

☎ 0550-83-0081

新お茶の水法律事務所  
東京真田町の会副会長

弁護士 山 口 元 彦

(横沢出身)

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-13-10 湯浅ビル 5F

☎ 03-3815-3344 FAX 03-3815-3341

# 祝 東京真田町の会

—会報20号—



## 勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

国土交通大臣許可(特定)第3065号

相談役 塩 沢 和 政 (大日向出身)

東京真田町の会 顧問

本社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町37番2号 千葉事業所 〒273-0018 千葉県船橋市栄町2丁目3番10号  
Tel・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360 Tel・047(437)8551 FAX・047(495)5755

菅平産業株式会社 取締役

菅平高原温泉 取締役

入間ガス株式会社 取締役会長

西北産業株式会社 取締役

## 半田幸弘

(中横道出身)

〒 359-0021 埼玉県所沢市東所沢 4-3-4

電話 04-2945-2425

### 編集後記

『日本ダボス第二〇号設立二〇周年記念号』を本日お届け致します。

上野池之端の文化会館に集い、同郷会設立を喜び合った昭和六三年九月一〇日から間もなく二〇年…今昔二〇年の想い一入です。

この間におがふるさとも小県郡真田町から上田市真田町に変わり、新幹線の開通もあって時間的な距離は縮まりましたが、若き日にあとにした心の中のもの、山美しく水清きふるさと、は少しも変わることなく、ふるさとへの山に向いていうことなし、ふるさとの山はありがたきかな、ふるさとであり続けて欲しいものです。

二〇周年記念号の発行に際しましては、東京真田町の会の設立・発展に力を尽くされた多くの皆様に貴重な掲載記事をお寄せ頂き、四〇頁に及ぶ充実した内容の会報誌とすることが出来ました。誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

記念号なので会員の皆さんの「ふるさとの思い出」につながる何かを考え、本号では「ふるさとで聴いた歌・口ずさんだ歌」とデジカメ写真の「ふるさとの風景 1・2」「ふるさとの山・川」の項を設けてみました。歌関係の資料はもっぱらインターネットに頼り、写真は折に触れて写したふるさと真田町の風景スナップを漁って、構成してみました。ご意見ご要望をお寄せ下さい。

末筆で恐縮で御座いますが、上田市議会事務局の片岡次長様並びに真田地域自治センター、地域振興課の宮島 剛様、お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難う御座いました。お蔭様で二〇周年記念号を無事に発行することが出来ました。厚く御礼申し上げます。また、編集スタッフの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

## ふるさとで聴いた歌・口ずさんだ歌 1

## 唱 歌 ・ 童 謡

- 春 仰げば尊し・朝はどこから・雨・うぐいす・うれしいひな祭り・金糸雀(かなりや)靴が鳴る・コイノボリ・小鹿のバンビ・この道・さくら・叱られて・しゃぼん玉城ヶ島の雨・背くらべ・早春賦・チューリップ・蝶々・ちんから峠・どこかで春が仲よし小道・花かげ・はなさかじじい・春の唄・春よ来い・ひなまつり・蛍の光みかんの花咲く丘・めだかの学校
- 夏 青葉茂れる桜井の・あの子はたあれ・あめふり・雨降りお月さん・蛙の笛・かもめの水兵さん・黄金虫(こがねむし)・しずかな湖畔の・手のひらを太陽に・てるてる坊主夏は来ぬ・七つの子・めんこい仔馬・椰子の実・夕日・揺籃(ゆりかご)のうた
- 秋 赤とんぼ・アーニーローリー・あの町この町・家路・肩たたき・故郷の空・故郷の廃家故郷を離るる歌・里の秋・十五夜お月さん・証城寺の狸囃子・砂山・小さい秋みつけた月の砂漠・庭の干草・野なかの薔薇・埴生の宿・浜辺の歌・星の界・待ちぼうけ夕焼小焼・旅愁・ローレライ
- 冬 一月一日・お正月・かあさんの歌・ジングルベル・スキー・聖夜・たきび・トロイカ浜千鳥・ペチカ・菩提樹・もずが枯木で・森の水車・雪の降る街を
- 他 青い眼の人形・赤い靴・赤い帽子白い帽子・朝だ元気で・一寸法師・いぬのおまわりさん・うさぎとかめ・おかあさん・お猿のかごや・お山の杉の子・鐘の鳴る丘・からの赤ちゃん・かわいい魚屋さん・蛙の夜まわり・黒い瞳の・故郷の人々・サザエさんサッチャン・サンタ ルチア・七里ヶ浜哀歌・信濃の国・鉄道唱歌・七里ヶ浜哀歌信濃の国・鉄道唱歌・どんぐりころころ・箱根八里・花嫁人形・笛吹童子・港

## 文 部 省 唱 歌

- 一年 ツキ・池の鯉・かたつむり・鳩・日の丸の旗・桃太郎・一番星みつけた・ウミ・オウマ菊の花・むすんでひらいて
- 二年 ふじの山・浦島太郎・案山子・二宮金次郎・紅葉・雪・たなばたさま・羽衣・花火
- 三年 春が来た・虫のこえ・冬の夜・茶摘・村祭・汽車・田植・野菊・手まり歌・子狐
- 四年 広瀬中佐・春の小川・村の鍛冶屋・牧場の朝・かえるの合唱
- 五年 鯉のぼり・海・冬景色・母の歌
- 六年 鎌倉・水師營の会見・われは海の子・故郷・朧月夜・思い出
- 中学 冬の星座

スペシャル・ミュージカル『真田幸村』～夢・燃ゆる～ O S K 日本歌劇団  
 日時◆2008. 2. 2(土)16:00～17:30(開場 15:00) ◆2. 3(日)14:00～15:30(開場 13:00)  
 場所◆上田市民会館ホール 料金◆前売 2,500円 当日 3,000円

……………上田城・大阪城友好城郭提携一周年記念事業として、O S K 日本歌劇団(旧大阪松竹歌劇団)の出演で上記の通り上演されます。お問い合わせは“ミュージカル「真田幸村」”公演実行委員会事務局(上田市民会館 担当:掛川、畑田さん Tel:0268-22-0762)まで……………

## ふるさとで聴いた歌・口ずさんだ歌 2

戦前(流行歌)

- ～昭和10年 酒は涙か溜息か・丘を越えて・影を慕いて・涙の渡り鳥・サーカスの唄  
東京音頭・山は夕焼・緑の地平線
- ～昭和15年 初恋日記・東京ラブソディー・女の階級・男の純情・愛の小窓・人妻椿・人生の並木道・青春日記・青い背広で・別れのブルース・愛国の花・人生劇場・雨のブルース・旅姿三人男・旅の夜風・悲しき子守唄・一杯のコーヒーから・上海の花売娘・港シャンソン・純情二重奏・大根月夜・誰か故郷を想わざる・新妻鏡・目無し千鳥・高原の旅愁・湖畔の宿・別れ船・めんこい仔馬
- ～昭和20年 明日はお立ちか・森の水車・鈴懸の径・湯島の白梅・南の花嫁さん・南から南から・勘太郎月夜唄・月夜船・お山の杉の子

戦後(流行歌/歌謡曲)

- ～昭和25年 リンゴの唄・朝はどこから・悲しき竹笛・東京の花売娘・かえり船・啼くな小鳩よ・夜霧のブルース・港が見える丘・泪の乾杯・夢淡き東京・とんがり帽子  
誰か夢なき・山小舎の灯・懐しのブルース・東京ブギウギ・三百六十五夜・湯の町エレジー・異国の丘・憧れのハワイ航路・シベリヤエレジー・月よりの使者・青い山脈・長崎の鐘・薔薇を召しませ・悲しき口笛・玄海ブルース・ダンスパーティの夜・白い花の咲く頃
- ～昭和30年 越後獅子の唄・私は街の子・トンコ節・江の島悲歌・高原の駅よ、さようなら  
連絡船の唄・あざみの歌・上海帰りのリル・あの丘越えて・ニコライの鐘  
憧れの郵便馬車・別れの磯千鳥・娘十九はまだ純情よ・あゝモンテパルの夜は更けて・リンゴ追分・山のけむり・ゲイシャワルツ・赤いランプの終列車  
街のサンドイッチマン・君の名は・落葉しぐれ・待ちましよう・雨降る街角  
高原列車は行く・あなたと共に・この世の花・次男坊鴉・小島通いの郵便船  
おんな船頭唄・月がとっても青いから・高原の宿・あの娘が泣いてる波止場  
リンゴ村から・別れの一本杉・かえりの港

戦後以後(歌謡曲)

- ～昭和35年 哀愁列車・若いお巡りさん・東京の人・早く帰ってこ・好きだった・踊子  
柿の木坂の家・港町十三番地・東京のバスガール・未練の波止場・チャンチキ  
おけさ・お月さん今晚は・だから言ったじゃないの・泣かないで・星は何でも  
知っている・夕焼けトンビ・有楽町で逢いましょう・からたち日記・黒い花びら  
・古城・南国土佐を後にして・黄色いさくらんぼ・東京ナイトクラブ・お別れ  
公衆電話・再会・誰よりも君を愛す・潮来笠・潮来花嫁さん・ミヨちゃん
- ～昭和40年 川は流れる・北上夜曲・銀座の恋の物語・湖愁・赤いハンカチ・なみだ船・  
いつでも夢を・星屑の街・江梨子・寒い朝・下町の太陽・島育ち・島のブルース  
・高校三年生・美しい十代・こんにちは赤ちゃん・東京五音頭・長崎の女  
おんなの宿・ああ上野駅・東京の灯よいつまでも・お座敷小唄・皆の衆・アン  
コ椿は恋の花・涙の連絡船・学生時代

ホームページのご案内

<http://www.applescience.com/sanadamachi/>

# ふるさとの風景 2 初秋～晩秋

写真撮影 : 編集部 武捨 衛人



山家神社



大日向の路傍



下郷沢付近の路傍



長小・中学校



お屋敷公園から  
菅平方面を望む



晩秋の和熊公園



石堂橋付近の晩秋



柿の秋

猫岳・回阿山



烏帽子岳



戸谷ヤ  
(山)



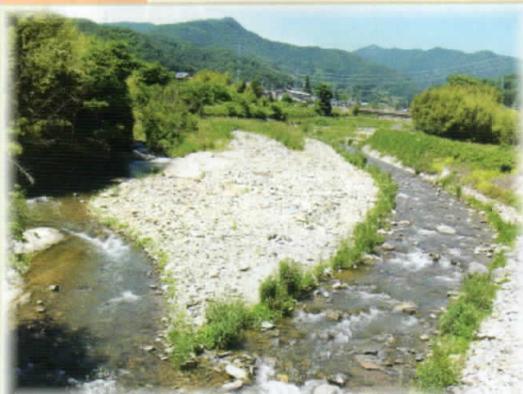
太郎山

ふるさとの山・川

傍陽川



千古の滝



洗馬川・傍陽川合流点  
(曲尾)



神川・洗馬川合流点  
(横尾)

(写真撮影 : 編集部 武捨 衛人)

日本ダボス 平成19年12月22日発行  
 発行 東京真田町の会 会長 中島 正江  
 〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E  
 編集委員 武捨 衛人 鈴木 邦子 堀内 幸  
 印刷 上田市・(有)アオヤギ印刷

TEL・FAX 03-3702-1385  
 木南 和世